青鞜

2

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜　第三年第二號目次

ホイットマン論……一……エリス　榊纓譯
あな妬し(短歌)……三……三ケ島葭
東北風(小説)……一七……プヂチエフ　瀬沼夏葉譯
戀あらそひ(短歌)……二七……白雨
哀悼(短歌)……三一……岡本かの
この頃の感想……三五……伊藤野枝
ふけよ川風(小説)……四五……小林歌津
一夜妻(短歌)……五三……原田琴
復讐(小説)……五八……人見直

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

宴の後（短歌）……七〇……原阿佐緒
目黒から……七五……岩野清
青鞜社詠草……八〇……岸照、其他
一年間……八七……らいてう
編輯室より……一〇一……同人

附録　新しき女及婦人問題について

婦人問題の解決……一……福田英
冷酷なる愛情觀と婦人問題……八……岩野泡鳴
談話の代りに……一六……阿部次郎
戀愛と結婚……二二……エレン・ケイ　らいてう譯

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社第一回公開講演會

一、開會之辭　社員

一、新しき女を論ず　生田長江

一、男のする要求　岩野泡鳴

一、婦人のために　馬場孤蝶

一、思想の獨立と經濟上の獨立　社員　岩野清

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一、演題未定　　　　阿部次郎

一、閉會之辭　　　　社　員

場　所、神田美土代町　青年會館

時　日、二月十五日（土曜日）零時半開會（晴雨とも）

入場料、金貳拾錢

入場劵は二月九日（土曜日）より當日まで本社事務所、社員自宅、東雲堂、並に市内の主なる書店にて發賣。

□男子の方は必ず婦人を同伴せらるる事

青鞜社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ホイットマン論 ―エリス―

二

ホイットマンは比類なき卓絶の域に達せし人にして、その生存中既に稀有の德育家として、基督及ソクラテスと並び稱せられたりき。「希臘魂を備へて、然も尙ヤンキーたるを失はざる後のソクラテス」なりと。然して彼の傳記家は、此人は「恐らく世界が嘗生み出せる最尊むべき人なりき」との彼の確信を簡單に記錄せり。彼の生涯の事實は極めて少數にして、且質樸なる事實なり。

彼は千八百十九年五月、ロングアイランド(Long Island)の南岸なる、大なる入江の沿岸に生れ、幼稚なりし西亞米利加の文學に始めて世界的生命を持ち來せしブレットハルトの如く蘭人の血を交へし人にして、此先祖關係は、彼の生涯の事實に、實に重大なる意義を齎らしたり。彼の詩集 Leaves of Grass の卷頭の肖像は、父に似たる表情を有する彼を示せども、後に至りては、バック(Buck)の著書に於て示されたる如く彼の母に奇異の類似を示すに至れり。彼自身も、先祖の間に於て女性に重きを置きしこと傳へられたり。「余は、余の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人格を形成せる三の主動力を認む。即ち遠き Netherlands より此地に持來られし母の家系、これその一にして又最上の性質なるもの、英國人たりし父系より受けたる片意地と放從、これその二、ロングアイランドの生地附近の海濱、幼時の舞臺、繁昌せる Brooklyn（ブラックリン）、ニューヨークを見、後に至りて內亂の經驗を嘗めしは、これその三」なりと。彼の母は、彼の云ふ處によれば彼にとりては「世界に於て、實際上においても精神上に於ても理想的女性にして、命にも愛にも彼にとりて最上の人」なりき。

三十年間、靑年として彼は自から世界の性質の考究に着手せり。この方法は彼の敎育としては實に之に優りたるものなきほどの良法なりき。彼はその There was a child went forth によつて、納屋庭と路傍とに過ごし去られしその考究の初步を說明したりしが、同じき考究心は、彼が敎師として、活字職工として、雜誌記者として、官吏として働ける間にも尙彼に伴ひ、殊に浮浪者たりし時に益その位置を利用したり。彼は數年の間、乘合馬車にては馭者と打ち語らい、工場にては職工と打ち興じつゝ Broodway 及 Fulton の渡船場等に於て遊び暮らし居たり。その肉體の健康は完全に、生活に足る程の金を容易に得しとは云へ、彼は人々の平等なるべきことの觀念を抱きて、その目前に擴げられたる雜然たる大なる生の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

流より流れ出づる諸々の生の杯を具さに味ひたりき。

彼の修養はある意味に於て、ゲーテのそれの如くに博く且篤實なりき。書籍を彼は多くは知らざりき。且それと共に、科學、哲學、美術をも知らず、只聖書、ホーマー、セキスピーア、ニーベロングエンリード（Nibelungenlied）（作者不詳の獨逸の高地に於ける十三世紀頃の史詩）等その民族の最も古き發語を以て滿足したりと思はれたり。後、千八百五十五年に至り、此新人格、その博き廣き根底をもつて組織されし時、ウヲターホイツトマンは、三十六歳に至りて始めて彼の Leaves of Grass と呼びし小册を自ら印刷して公にしたり。

この後、ホイツトマンの生涯には只一の新き重大なる感化來れり。然れ共その感化なかりせば、彼の生涯とその作物は實に大なる欠陷を有したりしは疑ふべからず。その時に至る迄重に彼を徵表せしは、その豪膽なる冷淡と、健全なる天來の學徒の淡泊にして質樸なる利己主義なりき。千八百六十年に內亂始まるや、ホイツトマンは六十二年より六十五年に至る三年間、病者の看護に從事し、ワシントンに於て遂に傷つきたり。然し彼の生涯の初度の病たるマラリヤ熱の爲に中止するの止むなきに至りしとは云へ、その三年間に彼は實に十萬に余る人々を訪問し、或は看護に從事せり。而うして彼が爲せし諸種の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小さき然も尊き働よりも、その人格の表現に伴ふ捲まざる愛と同情とは實により多くの價を有したり。彼は彼のSpecimen Days and Collect 及 Drum Tops に含まれしその Memoranda に於て彼の働の短き然し尊き記錄を與ふると共に、彼の經驗に就ては、より正確にしてより眞實なる記錄を殘せり。此時期より、凡の生ある者に對しての神聖にして愛憐の情なる厚き深切はホイツトマンの作より去らずして、時としては彼の拔群なる利己主義よりさへも勢力を得ることあり。これ實に多くの人々が彼の全人格內を通じて鳴り響くを感じ、ある程度迄は彼が感得せし信仰を現はし、又これらの戰爭の經驗のよつて完全なる發育を遂げたる、彼の大なる感情的天性中の要素なりき。

ホイツトマンは完全なる强き肉體をもつて、若くしてワシントンに入れり。「彼こそは男なり」と彼を知らず、只偶然に窓を通して彼を一見せし峻嚴なるリンコルンは云へり。彼がワシントンを出で來たれるは老ひ且衰へし後にして、生命の最高潮を過ぎし後、降下の道を步まん爲なりき。然れ共肉體の印象に於ては、その時のみならず、常に、目ざましき風貌を失はざりき。彼はその後(重にドクトルバツクによつて)六呎の高さにて殆ど二百封度の體重あり、鈍き重き、淡き靑色の稍小さなる眼、(大なる輝ける眼は、常に至大なる創造的想像と相關聯するを思はゞ、此點は或種の興味あるべし)大なる口、厚き唇、大なる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美しき耳、非常に鋭敏なる感覺を有したりと傳へられたり。その顏面の特種の色は輝きたる褐紅色にして、その身體はチユートン族のそれならざる「快きばら色」を呈し、その歩態は宛然巨象の歩調に似たりと傳へらる。彼のボズウエル型の傳記家ダクタル、バック（後に出で然も等しくボズウエル型の傳記家なる Mr. Kennedy も詳細にわたりて確證を呈せり）が云へりし如く暫時彼と共に有りし人にさへも「如何なる說明も、此人の驚くべき肉體美のある概念丈をも與ふる能はざり」き。

千八百七十三年、癱瘓（パラリシス）によりて半身不隨に陷り、實に三年間は何處にも回復の望見えざりき。然れ共不完全ながらも健康は徐々と復歸し來れり。これらの數年を彼は殆ど入浴と日光浴に送りしが――「程近き垣根に衣服をぬぎ捨て、頭には古き麥藁帽を載き、足にはゆるき靴を穿ちて――此の療法は余程の効驗ありしことを彼は信せしもの丶如し。「恐らく自然の間に於ける裸體の愉快を知り能はざる人は、清淨（ピユーリチー）の何たるを眞に知ること能はざるべし――況して信仰、藝術、健康の眞に何たるをや」と。

今此人の作物を窺ふに先ちて、我等は先、その人格を認めざるべからず。

殆ど、一の著書にしてその作家の尊むべき膏血の幾部を含まざるものはあらざるが、然

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うして Leaves of Grass にはより多くの著者の人格の生けるを見る。この小詩集は實に諸種の生の感傷的反響を書き下ろせる、大胆にして悔なき人の全生命の流出せるものなり。「如何となれば」彼の偉大なる格言によれば、

如何となれば、
數多の年と貞節と友情と、生殖と愼と裸體とを知りて後、
土を踏み、水を渉りて後、
自由なる咽喉を得、誘惑と多くの氣質と民族とを知りて後、
智識と自由と罪とを知りて後、
全き信仰と清淨と高雅なるものとを知りて後、
多くの妨害物を除き得て後、
これらのものと、尚多くの物を知りて後、始めて人にも女にも、聖なる言葉の力は來るなれ。

三

その言質在來の意義に於ては、ホイットマンには深き藝術を認むること能はず。若し又藝術家としての彼に近付かんと欲せば、海外に於ける藝術家の群のうちにてミーレーは最も近似の點を有せるならんか。ミーレーは實にホイットマンニ深く且密接の類似を有せし人なりき。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然も一見して彼等の作物には不思議に類似の點なきも亦奇とすべし。即ホイットマンは偉大なる新國家に於て歡樂と新奇と希望のあらゆる發顯を樂しめるうちに、ミーレーはより古き、より冷かなる國に於て、傳說と苦惱と勞作とに追はれたりき。然れ共其本質に至りは全く同一のものたりき。

外貌に於ても。ミーレーは屢ホイットマンと稱されしが如く、相似點を有したりき。その肖像によればミーレーはその壯年期に於ては、廣き胸腔を備へ、正しき姿勢、靜にして射るが如き力ある目、優しき表情を有する眼瞼、高き鼻、稍膨らみを持ちし鼻孔と、締れる口元と濃き黑褐色の鬚を有して、男性美の備はれる偉丈夫なりきと云ふ。肺勞藝術家――キーツ、ソーローの如き――こそ常に健康と愛すべきもの丶爲に望みて、凡の快ならざるものを避くれ共、時代と勞作と苦惱との上に正しく面するに足る氣力を有し、即ワシントンの病院の追憶をもてみたされたる胸裡より Leaves of Grass を書くに足る勞作の浪費に堪へることは、これら健康の化身とも稱すべき人々にのみ能ふべきものなり。

今日に至るも尙未だその正確なる評價を與ふる能はざる大藝術家チャンスティン（Jan Steen）が、十七世紀の和蘭に試みたる希臘精神を藝術に運び來るべき運動を、ミーレーとホイットマンとは彼等各自の持場に於て最も熱心に且綿密なる注意をもつて試みて成功せる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近世に於ける人々なり。茲に我等が希臘精神一の到達と云へるはボーグロー (Bouguereau) 或はレイトン (Leighton) 等によりて示されたる、なだらなる裸體によりて達せらるべきものに非ずして、特に人體によりて示さるゝ、一藝術家の住へる時代及國民の生命(ライフ)の質樸にして自然なる美しき描出に外ならず。故に時代と國との差別によりては必ずしも同一の形をとるものにあらず。ミーレー夫人がその一友に書き送りし「彼の前年の批評が我等を信せしむるが如く、不潔を描かんが爲に非ずして、ぎこちなきリンネルがその折目を平らにし身體の形をとり、彼が云へりしが如くに、裸體以上に自然のより大なるより單純なる形を示して、彼が愛せし品性に一層新しく一層强き音調を與へ得ん爲に、同一の襯衣を不快なる迄長く着けんことを逼りしと」云へる一事は頗る興味ある事實なり。之れ實に眞の希臘精神の異りたる時代に於て異りたる天地に於て働けるものなり。ミーレーは彼にとりては裸體を描くは眞ならざるべきことゝ、同時に人物のみが描出に於て無上の興味あるものなるを感じたりしが如し。世を隔てたる圓盤遊戯者或は鬪士によらず、彼が自身の書室に於て鏡にうつれる自己の姿より寫せし、その同職業なる自國の百姓の形に於て自然と膂力の美を現はせる Sover に於ては、ミーレーが嘗達せし極致に於て、此精神の流露せるを見たり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ミーレーの作に主要なる働をなせる粗き衣服と原始的なる木靴とはホイツトマンのそれに於ける奇怪にして無骨なる文字と、種々の學術的語法に相應せるものにして、或は偶然の一致とせらるゝことあらんも、こは眞に免るべからざる必然の結果に外ならず。「人は崇高なるものゝ爲に、通俗語を用ふる方法を知らざるべからず」とミーレーは云へり。而うして兩者は異例の物よりは平俗の事物を扱はんことを務め、その作に於て自然の大と質樸とを持ち來さんことを試み、現はさんことよりも寧ろ暗示せんことを欲したり。又自然中に美ならざるものゝ存在なきことを等しく主張して、ミーレーの如きは「自然に欠陥を見出す人はその欠陥を自身有する人なり」と云へり。

ホイツトマンの我等にとりて主として趣味あるは、彼の藝術家たる所以にあらず。彼が我等に質樸にして純なる美學的歡喜を與ふる Out of the Cradle endlessly rocking 或は When Lilacs last in the Dooryar Bloomed 或は This Compost 及其他の斷片を書きしは事實なるのみならず、我等は又「日出の音なき散亂」「太陽に向つて腹部を脹らしつゝその背によつて浮べる」水浴中の青年等に現れし、ホーマーにも比せらるべき質樸と壯麗とを有する、事物の奇異と美に對しての鋭き知解を示す章句を屢認むることあり。然れ共斯様の結果は

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事偶然に生せしものにして、その眼目とする所はその點ならず。即ちそれらの數節は時として自然の豫知すべからざる測りがたき非凡の景福の或物を有せることを有りしも、然も粗暴なれ共輕便なる區別によれば、それは藝術の詩と稱せんよりも寧精力の詩と云ふ方を當とすべし。

ホイットマンの學術上の考究を語るに當りては、その論究せる語法の意味或は言質構造の正しき精確なる意味を失し、談論中に於ても屢感情に走り或は平衡を失して、聯絡を欠くことあり。此點より見ればこの人に於ては、道德はその最も廣き意味に於て科學よりも進步の域にありしことゝ、審美學上に於て彼は全宇宙に對しての感動的熟視に氣を奪はれ、神秘に併呑され終りたるは疑ふべからず。故に我等の目に觸れるは只特種の曲げ易くして應答ある方法に於て、多樣の人格のそれ自身の爲に表理を求むる事なり。これらの聖歌の、イザヤ或はヨブの書の如き古代希伯來の經典に、對する類似は、深きものなれ共、又ある意味にては皮相のものたることを免れず。即ちその經典に於ては作家は又藝術家にして、彼は利益ある凡の科學を吸收すれ共、彼の主眼とする處は世界と生に對する一の道德的見解の表理に外ならず。

ホイットマンは此珍らしき、然も最も重要なる位置を占むべき人の爲に「應答者」なる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

名詞を附したり。それら應答者の職務は、哲學者の如くに觀念の配列或は制限を設くるならずして、彼等は寧觀念の如何なるものなるか、或は遂に存在せざるものなるかを決定すべきものなり。又彼等は「美の從者ならずして、寧權威ある主人なれ」ば唱歌者の如くに世界の外物を稱揚すべきにもあらず、又虛想上の物形を追ふべきにもあらず。即一言すれば、應答者とは觀念の作成者の意に外ならず。

（未　完）

榊　纓　譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あな妬し
―三ケ島　葭―

誰ゆゑにひらくみ胸ぞあな妬しわれ入りわぶと告げにしものを

誰も見て誰も知るそのまごころをあはれわれにも語り給ふや

去ぬるにはおどろかざれど來たるこそ不思議なりけれ夢のまながら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あすの日もなほあるわれと見まがひて見せ給ふにやもてあますさま

女なれば悲しといはむ何なれば君は悲しき男なるらむ

君を戀ひはらちがひなる弟にいたはられつつ病める苦しさ

あきらかにわがあやまりのあらはるる日なくばいかに悲しかるらむ

恨さへつもれば消ゆる我ならむ打てども鳴らぬ胸のさびしさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

君に見るおのれはありて我に見る君は無きなりあなあぢきなし

ああつひにひとりなるべき男かとわが前ならでいつ嘆くらむ

見ねどうし今は二人を二人とも君を君とも我を我とも

狂ふなり言ふまじとして言ひたまふその悲しさに聞かまほしさに

與ふるやこの世にみつる悲みを前世の仇に來世の仇に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ありうべき身ともけうともおもほえねどうつそ身なれば死にがたきかな

いづくより來るや去るや亂されて心は知らずその姿をも

ゆくりなく理に誘はれぬああかくもわれ薄弱の心なりしか

あな苦し君のほかなきこの心惑ふと言はばゆるされむかも

迎ふべき君が笑みをばおぢにけり死も恐れずと言ひし身ながら

男よりはた女より言ふことのきはまるところ
あはれ何ぞや
そこにあれ如何せずともよしといふ君にまた
問ふ如何すべきぞ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

東北風 ―ブヂシ・チフ―

三

この東北の風ほど、乖性な、人を騙す風はない。或時にひよつとしてこの風は女であつたかも知れぬ。夜更けて幾度かばつたりと靜つては、もう其の威力も全く衰へたと漁師等に見せかけて、從等を海上遥に誘致だし置き、さて氣味よしと云ふやうに、又も其暴威を逞ましうせんとするのである。が、漁師等はもうその手には乘せられぬ。それで風はもどかしさに堪へ切れず、此度は二倍の暴威を以て山より吹き出し、狂ひ狂つて、其の特有の鞭を上げて空氣を縱橫に切裂くのである。

『何だか浮かない顏をしておいでね、旦那樣』。

と、マリアンカはヴェランダの安樂椅子に倚つて、新聞を讀んでゐるコローボフの處に來て云つた。

『うむ、面白くもないよ』と、コローボフは眼を新聞から離さずに云ふ。

『何故?、よう旦那、よう旦那つてえば』マリアンカは猫のやうに甘へて、コローボフに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

媚る。コローボフは口をキツト結んだ。マリアンカは溜息を吐く。

『私知つてゐます。何を旦那が思つておゐでだか、屹度さうですわ、私のことを嘘吐き！惡黨め！ つてゞせう？ だけれど、私の身にもなつて御覧遊ばせ、私も奈何かして旦那の爲に、御都合のいゝやうにしたいと、那もしやうか、恁うもしやうか、と、それはいろ／＼思案をして心配をしてそれでもゐるんですわ』。

『ふうむ、さうか。だがマリアンカ俺はもうお前を信じないぞ』。

と、コローボフは新聞を卓の上に投出す。

『いゝえ旦那、さうお思召しちや酷うござんす』と、彼女は手を伸して叫ぶ。

『旦那は何も御存じないんですもの、私もう散々に思案して、思案して、自分の頭を駄馬のやうに打つても見たのです、だけれど旦那は那樣ことは御存じがないわ。夜だつておち／＼安眠れないで、ほんとうに一時間ごとに眼を覺してゐます、奈何したらいゝんだらう、奈何したらいゝんだらうと思つて……』

『さうして何か思ひ着いたのかね？』と、コローボフは怒つたやうに唇を曲げる。

『まあお笑ひなさらないでお聞きなさいよ』、

と、マリアンカは指を上げて振る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『別に笑ひはしないさ』。

コローボフは卓の上の新聞を取つて、又直ぐにもつと遠くへ投げた。マリアンカの眼は愉快らしく輝いた。

『旦那は何にも御存じぢやないわ』と、彼女はさも嬉しげに、コローボフに身を寄せながら早口に呟く。『ようお聞きなさいよ、で慫うなの、今ね、もう父が此處へ遣つて來ますよ、旦那にお願に、それは今日ね、町にゐるステパニーダ伯母樣の所へ行くから、お暇を頂きたいつて。それ御覽遊ばせ！　皆私が慫う計らつたのですわ、さうすれば今日一日中まるで旦那樣とお二人切り……ね、私の心がお解りでせう？』

コローボフは額までも赤くなる。

『さうかい！　あゝ？』と、彼は兩手を伸して、彼女を抱かうとする。マリアンカは蛇のやうにスルリと手の下から拔けた。

『今父が參ります、いけません、いけません』と、彼女ははつとして眼を輝して小聲で云ふ。『もう少しの我慢ですわ』。

風の隙よりゲオルギイの跛を引く重い跫音が聞えた。

『叱ッ！　我慢なさいよ』。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『可愛いよ……』と、コローボフはまだ手を伸してゐる。

『いけません、もうすぐ！　もうすぐ！』

云ひ棄てゝ彼女は敏捷く、ウェランダの欄を飛び越えて庭に下り、身を枳殼の藪蔭に隠したが、其處から又も駈出してもう二三十間計りも先へ行つた。ほつと息を吐くかと思ふと、忍びやかに手を叩いて誰かを呼んだ。

『ペートロ！　ペートロ！』

忽ち藪の蔭から藍色のシャツに、幅の廣いズボン、それに皮の帶をしめて、低いトルコ靴を日に燒けた足に穿いた、一人の若い瘠せた漁師が現はれた。マリアンカは見るより彼の頸に飛び着いた。

『そんなに酷くぶら下らないでくれ、俺の頸は錨索ぢやあねえ』と、漁師は云つた。

『うれしいわよ』と、マリアンカはいそ〳〵として云ふ。

『だが俺にや氣に喰はねえんだ、お前があの片眼の鰈と接吻なんぞしくさるのは』と、若い漁師はさも汚ないものを見たかのやうに其の痘痕の鼻を皺めて云つた。さうして彼はキツトなつて眼を險しくする。

『彼の人は片眼ぢやないのよ、あれは一眼鏡と云ふのでね、紐で懸けるの、今大變流行な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んですわ』と、マリアンカは笑ひながら云ふ『那様ことは奈何でも可や、俺は嫌なんだ、だがマリアンカ貴様はどうも不可ん奴だ！』と、漁師は荒々しく云つた。

マリアンカは彼の頸を一層しつかりと抱いて、自分の頬を彼の頬に擦りつける。

『私は猫とは始終接吻しますわ』と、彼女はさも猫が咽喉を鳴らすやうな聲で云ふ。『もう澤山よ！　猫の子なんぞの爲に、そんなに私に燒くのは。でもね些と、その鰈のお蔭で、い、お金儲があるのよ！　ひよつとしたら、まだ／＼あるのよ！　ね、ペートロ解つて？』と、彼女は小聲になる。『帆掛船があの鰈の机の抽斗に入つてゐるの、で、鍵はね、そら鏡の立て、ある机の上の淺黄色の花瓶の中に有るのよ……鏡臺よ、さう／＼鏡臺つて云ふのこの鏡の立つてゐる机を……五百圓の帆掛船が入つてゐるんだわ。ねえ、もうさうして何時までも人に使はれてゐるのも幅ぢやないわよ、よう一本立になつて早く遣つて見たかないの？　え、ペートロ？　よう？』と、マリアンカは指を振りながら、いとしさうに漁師に其の細い躰を擦寄せる。

『だがなあ。まあ止せ、那様に俺の頸にぶら下るのは、もう一時間の餘も止めずにさうされたら、俺は怒つちまうぞ！』

其時騷がしい風の隙から、またグオルギイの聲がする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『マリアンカ！　マリアンカ！　俺はもう出掛けるよ、ステパニーダの所へ！　何處だ貴樣は、仕樣のない奴だなあ！』

『お父樣だ！』と、マリアンカは小聲で云つて手を打ち、慌てゝ漁師の唇に接吻する。さうして些と考へて又もう一度接吻した。旋て彼女は飛ぶやうに後に駈出したが、俄に又顧つて小聲で叫んだ。

『待つてるのよ夕方に、毎度の處でね！』

『仕樣のない奴だ、何時の間にか姿を隱して了ふ、土の中えでも奴、もぐり込むのか！女てものは始末にならねえ奴だ！　此方から拔けたと思へば、もうひよつこり彼方の方から飛び出て來る、旋風のやうな娘だ！』

マリアンカは父に別れをして、彼の姿の隣の小山の蔭に見えずなるまで見送つてゐたが、直ぐその足でコローボフの所に行つた。

『さあ、今旦那にも私の心の底がお解りになつたでせう、でも私嘘吐き？　奈何して默つておゐでなの？』

コローボフは彼女を抱いて高く差上げ、其の顋に接吻する。

『あれ、私牡蠣ぢやありませんわ、生で食べて頂いちや困ります、旦那！　よう旦那！』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼女の眼は暗く暗く霧がかゝつたやうに、然も奥深く輝いた。

『お前は俺を愛すのか、奈何なんだ？』と、コローボフはまだ彼女の躰を抱いたまゝ、手を離さずに訊いた。

『だけれど旦那、このことはね、どうぞ誰にも言はないで下さいよ、決して誰にもね』。と、マリアンカは頼むやうに云つた。『許嫁の夫のある身ですもの、浮名が立つちや困りますわ。だけれども又這麽に御親切にして下さつたお志は、私にとつちやなか〳〵徒疎には思はれません』と、彼女の眼は急に明瞭とした。『あの先に頂いた綺麗なまるで紅のやうな珊瑚だの、大好なあの紫水晶だの、それからあの瑠璃のやうな空色の寶石だの、またあの綺麗な派手な絹のヴェールや、それからあの銀の留金の附いた、柔かい異色の靴、その綺麗な飾たらない！ 本當に奈何しやう、その綺麗なことゝ云つたら。まだそれからあの香水、其又壜の何とも云はれない綺麗さつたらないの。さうしてあの匂のプン〳〵する、色の冴えた香油ね、皆こりや旦那が下さつたものぢやありませんか、這麽にいろ〳〵のいゝものを、皆本當に旦那が私に下さつたのだわ、よう旦那、さうぢやないんですか？』

マリアンカはコローボフの頸を自分に引寄せて其頬に接吻する。コローボフは俄に火傷されたがのやうに自失して了つた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『そのお禮によ、いゝの旦那！　ですけれどあのブローチね、それあの立派な、高價いブローチ、あの奥樣にお上げになる、えゝいゝわ、そりや勿論、さうあるべきですわ、私も、もう本當に這麽にいろ〳〵頂いてゐるんですから、嬉しくて嬉しくて堪らないんですわ！』

コローボフは夢中になつて齒まで食締ばつて彼女を痛い程に抱き締めた。

『お待ちなさい、今、些と、ねえ！』と、マリアンカは怖々に賴む。『少し散歩して來やうぢやありませんか、緩りと……今日はもう一日私等のものぢやありませんか』。

『ぢやさうしてからお前は又此處へ來るのか？』と、コローボフは訊いた。

二人は散歩をした。稍暫く彼等は互に抱き合つて、一つ躰のやうになつて、吹き卷く東北の暴風の中を行きつ、戾りつ、マリアンカの紺靑色のスカートは風に飜つて、コローボフの膝を纏ひ、全く二人は一躰のやうにぴつたりと喰着いたまゝ、庭の彼方の山茱萸や、枳殼の藪の間、または低く曲つた檞の木の邊を行きながら、幾度か接吻を爲合つて、唇をもう其儘離れず、恰も痙攣を起したかのやうに。

『今日はお前は俺のものだね？　今日いつぱい！　なあ？』と、コローボフは彼女を抱きながら云つた。

『さうですわ旦那』と、マリアンカは小聲で答へた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

海は濃い紫紺の暗い暗い眼に、白い焔を吐いて、限りなき恨を含むかのやうに、彼等を睨んだ。風は孤子の泣く聲のやうに、咽びては叫び、物狂ほしく海と怒號し合つてゐる。

彼等は矢張一つのやうになつて散歩をしてゐた。

『家へ行かう！』

と、時々コローボフはさも歸りたさうに云つた。が、彼女はもう少時、もう三十分、でなければもう十分でもと彼を引留めた。別莊の周圍ももう三度も廻つて、遂に二人は彼の眼も暉めく絶壁の岩の根に、腰を下して憩ふた。四邊には人の影もなかつた。

『旦那私を愛して？』と、マリアンカは彼から離れて、落着いた眼で彼を凝然と見て訊いた。

『愛すよ、で何んた？』

『奥樣よりもも、もつと？』と、マリアンカははつと醒めたかのやうになつて唇を心ばかり歪めて彼に訊いた。此の刹那、彼は彼女の眼の閃で、それと彼女の心を見て取つて、あはやと計りに立上つたが、時は已にもう遲かつた。彼女はすつと身を引くより、忽ち山猫のやうになつて、彼の後に脊を高くして身を曲げた。彼はたゞ兩手を上げた計りであつた。

一時間を經て歸り遲れた二人の避暑客の、黄色の傘と、薄紫の傘とは折しも絶壁の下を通

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

り懸つて、今は人とも分らぬ鮮血にまみれた無殘な肉塊を見て、わあッ！と云つて魂消る聲を振絞つた。

マリアンカは人に對つて云つた。

『私は自分で見ました、この酷い東北風が彼の人を、まるで槲の木が根本から折れたやうに、足下から捉つて落しましたのを……』

と、彼女は胸に十字架を書いて、潸然と泣いた。

（完）

瀬沼夏葉譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀あらそひ ―白　雨―

強き強き戀爭の其の中に勝つ人なくてあらば
よからむ。
戀なくば生くかひもなし此胸さむくろを何に
よりてさゝへむ。
うつゝなき魂の行衛の果までも追ひて行かま
しあゝ君のあと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

わが植ゑし君が心の名なし草嵐にあてそ散りまく悲し。

心より逝きにし君の戀人に再び手たに觸れたまはざれ。

われのみと深くも頼む人ならば生命と云ふもなど惜しまむや。

二心あるに似て他人を戀すてふ君を惜むも亦あぢきなし。

うつし世は明日逝く人も魂かけて戀することの悲しみもあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

妬ましの心か知らずあだ人に思ひかけしとき
けば泣かるゝ。

夫なれどわが戀人に定めなむ宵々來ませ草深
き里。

側近くある日思はずかく君と天のたゞちにな
ど別れけむ。

天地の何物よりも代がたき戀を持ちけり君を
持ちけり。

これのみをたゞこれのみを思ひけり二人會ふ
日を離れざる日を。

美しきものゝ一つに數へなむ夫を思ひてある一時も。

淋しげに灯のつきし夜の街を君と別れて歸り行く我。

戀すてふ事の尊さ美しさ戀ならぬ戀に落つあぢきなさ

接吻にいさゝか心落つけし君去りし部屋に殘る水仙。

恐ろしき事を企て暮れし日は物手につかず涙をさそふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ためらはで打ち明けられし嬉しさの戀も思はずたゞ泣きてあり。

明け暮れにわが採るペンに書き馴れし君の名なれば懷しくよむ。

あはれ君に文書くことの恐ろしさ謎の葛籠の蓋取るに似て。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

哀悼 ―岡本かの―

（故大貫晶川氏の霊に捧ぐ）

武蔵野の疎林のなかの一すじの道はるばると
君は逝きけり。

「死」を怖れ「死」を咀ひたる若人を試みんとて「死」は
誘ひぬ。

煙草のむ暇にも「死」をば怖れたる君のなどてや
死をば招ける。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

武藏野の雜木のなかの一ひらの白銀の葉は散り失せにけり。

武藏野の秋の夕の寂しさを誰に語らん君逝きしのち。

何處より殘されて泣く人々のいたましさをば君は見ますや。

君奪りに來し「死」の手をば玉川の流れもつひにせきかねけるや。

玉川の流れの末の末とほく行かばや君の魄に逢はむと。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞白なる石に変りて君が魄ありやとまどふ川邊あゆめば。

袖ひぢて秋の夕の多摩の水掬べば君に逢ふ心地する。

奪はれし君をなげきて病む我の後にまたも「死」のひそむかや。

嚴かに君がつけたる足跡を見つめたるまま涙するのみ(遺稿に對して)

武藏野の秋の夕風歔欷つゝ冷たき君がみ墓邊を吹く。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此の頃の感想

―伊藤野枝―

○

私はつい、この間まで「自己」と云ふものに就いて眞面目に考へる事がどうしても出來なかつた。又强いて考へようともしなかつた。だから自己と云ふものに對しては常に不忠實でありまた無責任極まる事をして平氣でゐられた、それもつまり自意識が缺けてゐたからであるが――。

當時私の周圍には私の敎育者と稱する嚴格な人々が絶えず私に向つて何事かを試みてゐた。然しそれがどの程度まで私にあてはまつてゐたか私は知らないが私は何日もその嚴格な聲に萎縮てゐたのは事實だ。そして私は樣々な矛盾撞着したその人達の聲をも一々尤もだと思つて受け入れてゐた。そして一切考へる事なしに云はれ强ひられるまゝに動いた。だから私の行動には一貫したものがなかつた。すべて矛盾撞着した行爲だつた。而も人には私の行動に現はれた處はすべて私の意志から出た事だと見做て、敎育者たる人達は御自分達の矛盾の小言を私にもつて來るのだ。私にとつてこれ程迷惑な事はない。然し自意識

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のない者は哀れなものだ。たしかに自分のやつた行爲に相違ないから自分の意志から出た事かと思つてしまふ。そして一々行爲の後で間違つた箇所を指摘さるれば成程さうかと眞面目になつて後悔する。然しその後悔は何時までたつても追付く筈がない。考へて見れば滑稽な事が隨分ある。

自意識のないものは一生さうして人の意識で動いてゐなくてはならない。そして一番損な位置にゐるのだ。然し前のやうな私の場合としてもし私の教育者たる人々の間にはつきりとした意識があればそんな馬鹿な眞似も出來ないし、自意識のない被教育者の地位にゐる私にだつて、いきほいその意識を要求するやうにさせるだらうと思ふ。

だから私は先づ、一方から云へば被教育者の自覺に先だつて教育者の位置にたつた人々から先に自覺して欲しいと思ふ。

女の自覺と云ふのもそれとおんなじだ。私は女の無自覺なのも實は長い間の男の無意識な壓制が女をこんなにして了つたのだと思ふ。

そてし壓へられた女の自覺動搖に先だつて先づ男子から自覺して欲しい。然る後に女の自覺は當然の要求でもありまた極めて自然ではあるまいかと思はれる。

今の處自意識ある女と云ふものに對して同情がありまたそれを要求してゐる、自覺ある

男は極めて少數だ。所謂新らしい男をもつて任ずる若い人々の間にすらまだ女の自覺が苦々しい事だと思はれたり迷惑がられたりする間は駄目だ、私達は女の自覺を促すと同時によく以上の力を以て男の自覺をせまり度い。

兎に角現今の狀態ではすべての女が男の意志のまゝに動いてゐるのは事實だ。或る意味に於て「本當の女」は全然ゐないと云つてもよいと私は思ふ。男はまた手ごたへも何もない玩具のやうな相手にはいゝ加減に倦きが來さうなものだと思ふ。然し男も矢張り位置は違ふが女と同じやうに淺薄で無意識だ。本當に深刻な自己に生きてゐる人なんか殆んど私たちの目には映らない。けれども男は全然おしこめられた女よりもすべての點に於て自由である。眞實に考ふれば女よりも解るのだもの、女の自覺を促すに先だつて先づ男に考へてもらいたい。

然し無自覺の男の壓迫に堪えずして女の自意識が發達して來るやうになれば到る處異性間に悲しい爭鬪を見なければならない。

自意識が發達して來れば無法な壓迫に堪えられなくなるのは知れきつた事だ。そして非常な力でそれをはね返す。その時は自分の全心、全身、全力を擧げての反抗だ。全自己をあげての反抗だ。だから幾分極端に走る嫌ひはあるが然し何時までもさう云ふ狀態は續か

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ない。

反抗の熱がまだ醒めぬ間は全力で無意識に種々なものにぶつかる。然し熱がとれて平靜になつて來れば、其處でどうしても本當の自分といふものを見つめねばならぬ。さうして自分といふものを考へて見なければならぬ。自分といふ最も尊重すべきものに對する自己の責任に縛められねばならぬ。つまり、本當の僞らぬ自己といふものを正視するやうになればどうしても眞面目にならずにはゐられなくなるわけだ。

然し人間の弱い處は其處にある。空虛な缺陷だらけな僞らぬ自己といふものをじつと見つめるといふ事は實に非常な苦しみだ。形容しがたい苦痛だ僞らぬといふ事は人間にとつて實に苦しい事でまた自己の責任といふ事も堪えがたい事である。

壓迫に堪えるといふ事は誰しも苦しい事だ。反抗するのが正當だとも云へるが、困るのは、充分の考へもなしに一時の感情で反抗する人だ。さう云ふ人は熱が醒めぬ間はいゝが、醒めて眞面目になる事が出來ない。自己の爲に苦しむ事が出來ない。つまり強くなれないのだ、自分といふものに相對する苦しさに堪えず我とわが心を僞つて、行くべき道がなくて迷つてゐる。確固とした道を步く事が出來ない。さうして、多くの敵からは嘲笑はれて、遂に自棄となり自暴となつて、不得要領に終る人が多い。殊に女子は感情的な丈けに、さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

う云ふ道に走りやすい。さうして淺薄な世間の人々は、または壓制者は籠の小鳥を逃がしたやうな忌々しさと自己の失敗に伴ふ反感とで様々な嘲罵を浴びせる。そしてすこしもそれを、理解しやうなどいふ事にはつとめないで却つて、立派な自覺ある女までも自覺なき自棄に終るが如き女と見做して終ふ。

男と女とは全然はなれて生活する事は出來ないのだ。然しその間に相互に相當の理解と尊重と、眞の同情がなくてはならぬ。然し自覺なき共同生活には毫もさう云ふ點に注意されてゐない。然るに双方で理解の出來ない位に遠く離れてしまへば更に、自覺なき生活にもまして双方の苦痛ではあるまいか。

私は種々な點で考へて女に自覺を促すと共に男の眞面目な自覺を要求したい。或は女に先だつて自覺して欲しい。理から云へばどちらが先に醒めても必ず自然の要求でもつて、一方が他の相手を同じ程度にまで引き上げるといふ事にはなるがそれも今のやうな狀態では女が先に自覺するといふよりは寧ろ男の自覺にまつて、然る後に女の自覺の要求される方が極めて自然らしく私には感ぜられる。

○

私は此の頃何處に行つても靑鞜社の方は結婚しないのですか、とか新らしい女は獨身主

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

義なのですかとか聞かれる。私はさう云ふ事を聞かれる度びに激しい憤りを覺えずにはゐられない。さうしてさう云ふ問を發する人を大聲で笑つてやり度い。

一體世間の人は結婚といふ事に就いてどんな考へを持つてゐるのだらう。私には結婚といふものが馬鹿々々しい事に思えて仕方がない少くとも在來の型のやうな結婚法には滿足する事は出來ぬしもう少し人間の自覺が出來て來たらきつと人手を借りての馬鹿々々しい結婚法では滿足してゐられなくなる筈だ。

今までの若くは今の結婚に對する人々の考へは實にあさましいものだ。私が女學校の家事科で聞いた講義に「結婚に際して考へねばならぬ第一の條件は將來自分の夫たるべき人が自分の一生を託するに足るべき人であるかどうかと云ふ事だ」と。すべての女の結婚に際しての考へは大方こんなものなのだ。結婚は自分の生活の爲めの活きたいための一の方法だ。愛のない結婚は罪惡だなど云ふ聲ばかりは大きくても事實に於てはさう云ふ事は全然無視せられてゐる。他人の手を借りての結婚といふのがその證據だ。それほど自己に不忠實な所業はないと云つてもよい。覺醒した自己を持つた者にはさう云ふ眞似は到底出來ない。

覺醒した男女の戀には目的や要求を含まない。夫だの妻だのいふ型にはめられたくない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あくまで自由な愛だ。異つた自己を守り異つた各自の生活を營みつゝ或一面によつて接觸し共同生活を營むのだ。而して相互に人としての權威を保ちまた尊敬を拂ふのである。其處にはまた同情ある相互の理解を缺いではならぬ。近頃遇つた或る男子の口から自分の感情を悉く受け得る女はあるまいとの言葉を私は聞いた。それは、男に對する女の同情ある理解の要求だと私は思つた。そして、私はその言葉を非常にうれしく聞いた。人形のやうな女には、とても分らない事だとも思つた。自分の感情を悉く受け得る女と云へば少し無理に感ずる點がないでもないが、それは多分云ひ現はし方が違ふばかりで根本の要求は同じ事だらうと思ふ。私は自分自身を重んずる。だから、他人の自己に對しても他人がその自己を尊重する如くに或は自分の自己を重んずる如くに、重んじなければならぬ。そして些細な事にもせよ他人の、感情の動搖やその現はれたる行爲に對しては、同情ある寛大な理解が必要だと私は思ふ。自覺なき人は徒に自己にのみ寛大で他人には些の點も許さない。自覺ある人は、本當の自意識の上に立つて自己を尊重はするが、自己の責任の爲めには絶えず内省につとめて自己の缺陷に對しては寸毫の假借もない。そして自己に何時も忠實で謙遜だ。故に他人に對しては寛大といふよりは寧ろ無頓着なのかもしれない。

自覺ある人々の愛は唯だ尊重、同情、理解によつて、形速られる。然もそれによつて形

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

造られた愛は、世俗的の所謂夢の如く美しき戀愛ではない。そして夢の如く徒らに消え去るものでもない。其處に偉大なる或る力が潜んでゐる。その力强き愛によつて、結ばれた男と女とは、最も幸福な人達だと云はねばならぬ。その人たちは相互の些の感情の搖ぎも、同情と理解によつて、悉く請け入れる事が出來る。そして自由に眞に愉快に生活する事が出來る。私は結婚して、何某の妻―云ひ換ゆれば何某の持物といふ名の下に究屈な思ひして不自由な生活に堪える事は出來ない。少し極端に聞こえるかもしれないが丁度道具が何かのやうな取扱ひを受けて、ゐる女が多い。私はそんな無意義な生を欲しない。かりにも人としての生存の權利命と云ふものを與えられて生れて來て、宛然無生物の樣な取扱ひを受ると云ふ事はいくら習慣とは云へ堪えられる事だらうか。私は世の多くの女に深くさう云ふ事を考へてもらひたいと思ふ。また男子側にしてもさう云ふ命のない女を相手にして彈力のない生活をし手ごたへのない生活を續けて行けるかどうか眞面目に考へて欲しい。

○

私は女がすべて自分を知らうとしないのが哀しい。何故自分が恐いんだらう。今迄の女は皆意久地なしだ。苦痛の內容を知らない臆病者だ。怠惰者だ詰らない目の前ばかりの安逸や幸福を得たいが爲めにすべて自己を失した木偶のみだ。そしてそれ等の女の敎育する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

者も同じ女だ。

私は女學校で敎育をうけた。皆の先生は一樣に皆幸福に暮するには、境遇に滿足するのが一番特策だと敎へてくれた。自分の內心から起る樣々な要求は悉く退けると敎へて呉れた目を閉ぢよ。社會に立つには學科として敎授する樣々な智識が必要だ。然しそれが何だ家庭に入つては世の中の事も知るには及ばぬ。日々敎授する智識は育兒の上に家政の上に必要なものだと敎へられた。そして一方には盲蛇におぢずの無智の平安を憐れむべき事だ等考へてくれる。何といふ矛盾した敎へ方だらう。

盲蛇におぢずがあはれむべき事だと敎へてくれるのなら何故自己の內部より起る要求の爲めには境遇も習俗も破壞しろとは、敎へてくれないのだらう。何故もつと目を開けてすべての實在物を見、そしてその實在物を知れとは敎へてくれないのだらう。先生達の敎へてくれる幸福とは何んなのだらう。すべての人は妥協によつて生れる一時の潔よからぬ平和を幸福だと云ふ。そしてまたその一時の平和や目前の幸福にどれ程の價値があるだらう。止むを得ない內部の要求を抑へるといふその苦しさ辛さはどんなだらう。然しそれを僅かな目前のみの一時の平和や幸福の償と敎へるに至つては私は世の所謂敎育者といふ人達の淺薄を腹立たしく思ふより寧ろ憫れまずには ゐられないまたさう云ふ無智な、と云ふを

私は憚らない教育者の爲めにかたわにされた、若しくはされて行くすべての女達の爲めに深く悲しむ。

（二、一、一〇）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふけよ川風 —小林歌津—

娘はこの頃になつて、めつきり女になつて來た。

胸一ぱいはちきれそうに、その感情はふくらんできて、毛程なことにでもふるへ安かつた。自分ながらばかばかしいと思ふ程、ちよつとのことが大げさに、悲しかつたり可笑しかつたりするのだつた。眼にはいつもうるみをもつて、何とも云ひ様のないつやをたゝへてゐた。うす紅色にほんのりとそまつてゐるそのふこやかな頰は、よく切れる薄刀でなでたらば、匂ひの高い眞赤な血がほとばしりそうに思はれた。

『私、よつぽど悧巧になつたんだわ』

娘はよくこんなひとり言を云つた。まつたくこの頃は、世の中のこと何一つわからないことはあるまいと思ふほどもの事が、ちやん、ちやんわかつて行く――これまでは、何のことやらわからぬなりを、お師匠さんの口うつしに歌つてゐた清元の文句も、いつかしら一つ一つはつきりと、解る様になつた。なまめいた口說なんかの、ところへくると臆面もなく大聲でうたふのが、どうしても氣恥かしい様な氣がして、きまつて、そんなところ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

へ行くと聲がつまて了つたり、顔がぽつぽつほてつて了ふのであつた。

『さ、高くはるんですよ、もう一遍やつてごらんさい、さ』

と撥を打ちなほしなほしながら、そう云ふ時には、お師匠さんはきつと薄笑ひをふくんだ目付きで娘の顔をぢつと見るのが常だつた。それが又娘には何となくお腹の中の思わくを、すつかり見破られて了つた樣で恐くて恐くて、なほさらに聲がにごつて了ふ。

『何にがそんなに氣まりが惡いんさ……誰れもおのうちやんのことを歌ふんぢやないから、そうはにかまなくつても、ようござんさあね』

こんな事を云はれると眼がくらみそうに、どぎまぎして、そこ〳〵に本箱の前をさがるのであつた。

それでもお稽古もどりの夕方なんかには、小きざみに日和下駄の齒をならしながら、お師匠さんの前でははづかしさに聲も出ないところでも、小聲ながら涼しい浮いた調子で、くりかへしくりかへし、歌つて見たりした。自分の、のどを辷り出る丸みのある柔かな歌の節に、きゝほれた樣に、うつとりとした目ざしで、いつか拍子を首でとつてゐる事もあつた。

『……いろに高音の三味線も、ふけよ風あがれよすだれ、中の小唄の一口に、想ひつ

くにもうつかりと、主に見されてなぶられた、身のうれしさもおよばぬ戀に揚羽の蝶、そめてそまらぬひよくぞと、浮世にすてゝ暮せしに、どんなうわきの神さんが、今宵結びし緣の糸、とけじはなれじ靑柳の………ほんとうに、うまいもんだわ、誰れがこんな氣のきいたことを歌つたんだらう』

娘はありありとこの歌の中の小菊と云ふ藝者のみだれ島田のすがたを、屋形船の中に思ひ浮べた。そしていつかしら自分も、小菊の心と同じ樣な氣になつて、長い袂をふりくしなをしてゐるのであつた。

『こんなに命をかけて、想ふ人があつたら――』娘はふつとこんなことを思ふと、自分の知つてゐる男の顔が、いくつとなく目の前をちらちらするのだつた。

『お母さん、竹門の原へ羽子つきに行つて來るわ』

娘は午後の時計が三時をうつと、こう云つて家を出た。しめのはり渡された往來は、年始の人達の車やら、羽子をつくものや、萬歲や、ごたくとにぎやかであつた。娘はわざと人の少けない新道をよつては落付かない氣持で步んで行つた。

――空想してゐたことが、こうも早くあらわれ樣とは、娘も思ひがけなかつた。こうし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てほんとうのことになつて來たのが、不思議でたまらなかつた。『もしも私が小菊の樣だつたら』考へたゞけ……『私の戀人にするならばこんな人でなくつては』とほんの思つたゞけのことが皆なほんとうになつて來た――娘はちよいと氣味の惡い樣な思に胸をふさがれて了つた。

『家へもどらうかしら』

『だつて三時に家を出て來ちやつたんだわ、どうせなるようになるんだもの。一思ひにいつて見よう』

娘は立ちどまつて考へてゐた。

『こわかつたら逃げて來るまでだわ』

こんな度胸が据つてしまふと、かへつて前よりも足が輕くなつて歩んで行つた。

娘の心には二三週間も前の記臆がよみがへつて來た。――すたれた二上りや三下りの小唄の習ひに來るようになつた男は、はからずも娘と同じ級にゐた人だつたと云ふこと、又その男が小意氣な、のどをもつてゐたと云ふこと、小學校時代の話からいつか、氣心を知り合つた友達の樣な心やすさになつたことなどが、それからそれへと思い出されてきた。

娘がかりに戀人だつたらと、空想してゐたその男からほんとうに戀をさゝやかれた昨日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の手紙のことも思ひ出すことの一つであつた。

水淺黄と、とき色の鹿の子を結ひ綿島田にかけて、立花屋の『馬切り』の羽子板をかゝへた娘と、若い苦味走つた商人らしい男とは途行く人の目を度々ふりむけさせた。

『ね、ほら、何時でした、があんたが男の組の組長をしてゐた時、そんときにね、お晝のおやすみの時間に二階へ上りながら、やぞうをきめこんで、都々逸かなんかを歌にうたひながら段々を上つたことがあるでせう？』

『よくおぼへてゐるねえ――』

『だつて、私見てゐたんですもの。そうしたらあのお髯先生が（こらつ！貴様組長のくせに何事だ！）つてどなつたわねえ』

『そう、そう、そして一週間組長をとりあげられたつけ』

『女の組ぢや皆な笑つて見てゐたのよ』

娘は背の高い身を少しこゞめかげんに、男によりそいながら、子供の時の話を思ひ出し思ひ出して話してゐた。

水神の渡しを向ふにした時分は、いつか强よい晝の光りが空から消えて、青味がゝつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月の光りにあたりはしつぽりとぬれてゐた。櫻の枝と枝が重り合つて見える先きの方からは靄にうるんだ赤い灯が、一つ二つちら〳〵と光つてゐる。——娘はかうして、男と歩いてゐるのが、案外にこわくないものだと思つた。そして、何となくこわばつてゐた言葉つきもいつかいつもの調子に返つて來た。

『お師匠さんへは、これから六時半ぐらいに入らつしやいね。すると一緒にかへれますから』

娘は無言でうなづいて見せた。

『どうして、男の方だのに二上りなんかお習ひなさるの。私隨分あなたが道樂者だと思つたことよ』

娘はやがて首をかしげながら、こんな事を問つた。

『道樂者つてわけでもないんですけど、年寄のお父さんやお母さんばかりで家に話相手はなし、淋しいんですもの、本でもよみあきた時にやなぐさみにちよいとしたものでも彈けるといゝと思つたから……それにお母さんもやれやれつて進めるんで……』

『さう。やさしいお母さんね』

娘は自分の母親のことを思ひ出しながら云つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『私や、さんざん亭主で苦勞しぬきましたからね、おのうにやどうぞそんな憂目を見せたくありませんよ。男に何にも養つてもらはなくつても、身についた藝でもありやあ女一人は充分どうにでもなりますから、あれは一生のひとり身で置くつもりですよ』

と口癖の樣に云つてゐる母親のことを考へると娘は何となく恐しい樣な氣になつた。もしか今夜のようなことが知れたらば――若いもの丶氣もさつして呉れないこんな母親をもつてゐるのがつくづく恨めしくなさけなくなつて來た。どんな憂目がかぶさつて來るか、いづれは氣まづい、辛い別れ方をさせられるのなら、いつそなんにも知れない今夜、このま丶どこかいなりと行つて了ふか、このま丶死んでゞも了つた方がよつぽどい丶と思ふのであつた。娘の頬にはいつか涙がつたわつて居た。

待乳山はこんもり黑く高く向ふ岸に見えて、三日月が山谷堀の眞上に橫たわつて銀色に水が流れてゐる。

『お母さんがどう思つたつて、私の心の番はできないんだ』

娘は妙に沈んで來た氣を我とこう云つてひき立て丶も見た。男は思ひ出したように、

『でも今は淋しくなくなつちまつた』。と云つてちらと笑つて見せた。

――娘も男もいつか低音に歌つてゐた。河岸並の家々の窓には、靑いあざやかなひかり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

がうつつてゐる。そうした芝居のうしろ繪の樣な景色を見ながら、胸一ぱい『想』をたゝえて二人は歌つてゐた。

襟白粉を夜の川風が冷え〳〵となでゝ行く。娘は、何にもかも忘れてうつとりと、床下のしんみりとしためりやすに連れて步む、舞臺のかけをち者の樣な心持で、自分の白粉の匂ひをしみじみとかぐのであつた。

――一月二十日――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一夜妻――原田琴――

かの君と炬燵の中のさゝめ言もれて美し秘めて美し

どこやらで歌はれるよな心地して柳のかげにほそぼそとまつ

君が名とわが名と裾にかきちらし肩に縫はまし後朝の月

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心中の話なかばにふりそゝぐ障子の外の雨をきくわれ

門口に清十郎や迷ふらんいでて逢はまし連れてにげまし

知らぬ子が君のみ膝に泣けるかと斷食したる二三日のこと

こころよき君が恨みにうすがすみ身をまくごとく春は來にける

よき人に口說かるゝ日か投ぐる日かみだれ心地のいとよろしけれ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ピストルをふところにして來給ひしその夕より夢のよろしき

相あひて何を語るや足らはねばよその男をよその女を

投げちらすわが心ゆゑ君がとるか女はなべて寒くふるはん

抱かれて正體もなきうつくしさ舞に疲れて戀につかれて

われになほ男心の見えすけずはかられぬこそいとうれしけれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夜更して君が酒のむかたはらにあるかひもなきわれとなりぬる

うそぶける君が心の憎らしさくちづけよりも酒をあびせん

わが裂きしハンカチのきれ拾ひゆく君が心のいと憎きかな

一夜妻一夜なるこそうれしけれ知らぬ男ぞ寒き男ぞ

君遠く道を開けりわれ深く穴をうがつもをかしからずや

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

浮名立つ知らぬ男と浮名立つ春なればよし知らぬ故よし

少女子の戀の心のおもしろや人形つくりが眼を入るるごと

戀ざめのこのこころよさ新らしき男にうつるこのこころよさ

捨てたりし男が少し恨む日か二尺に足らぬ袖の重たき

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

復讐 ―人見直―

枇杷の實はたわたわと熟した。

其の簇つて生つてゐる黃ろい實に泌み入る日の光りが、輝やかな初夏の空を深く思はせる。

ばさばさしたやうな厚い葉にも、明るい綠りが漂つて居る。

懷しい頃である。

同じ初夏でも梅雨前の晴れ渡つた空ほど、柔らかいうるほひをもつたものは無い。たとへば拗ねて甘へたやうな少女の深い瞳の色を思はせる。じつと見つめて居ると、靑いほの明るい光りの色が溶けて流れて居るやうだ。

そのかゞやかに晴れ渡つた綠りの空の下に立つてじつとして居ると、心は何故か悲しくなるまでに輕い疲れを覺える。

丁度そのなつかしい初夏の頃であつた。

小島は長い漂泊から歸つて來た。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

長い漂泊――とさへ言へば、もう何かしらセンチメンタルな感じがされてならない。――其れはもう如何にも低い、狹い、そうして何處か行きはぐれたやうな淋しい南の國の小さな町々、地震でも來そうな、欝陶しいうす曇つた日が幾日も幾日もつゞいた。潮曇りもして生温かい風の心持惡く吹きつける日もあつた。さう言ふ佗しい色も曇つた南の國の空の下――波の音の重たく響く方にごたごたと稠密した家。あゝ自分は何の爲に其麼ところ迄漂浪して行つたらう。來る日も來る日も浪の音の胸に悲しくひゞいて、夜の星の瞬きさへ思ふ程なつかしくはなかつた。………

凝然として座つてゐると、心がしみじみとなつて來て、小島は、種々な　ことが思ひ出された、新らしいみづみづとした心が湧いて來る、そして多くの人々が戀しくなつかしくなつた。

と、非常に小島は自分が貧しく哀れに思はれてならなくなつて來た。

それにしても彼が歸京してから最早五日にもなるのだが、未だ一人も友人を訪ねない。

ふと秀子のことを思ひ出した。すると小島は珍らしく心が躍つた。同時に靜かなそゝのかされるやうな悲しい心もちも起つた。彼は誰を措いても今日は一番先きに秀子を訪ねて見やうと決心した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

旅にあつても小島の胸の奥の方には、何時も、髪の毛の美しい可愛らしい紅い唇をした、色の白い少女の影が働いてゐた。其の影が小島に向つて、或る時は微笑んで見たり、或る時は甘へて見たりして處女らしく拗ねてもゐた。而して旅にある間に感じたある時の心の啜泣きが、實は此の少女に對しての淋しい情緒ではなかつたかと思へた。

小島は、俄にそはそはし出した。置き放しのまゝ手も付けずに居た荷を解いて、その中から色々土産の品を取り出した。それは一目見たら屹度少女の喜ぶやうな物であつた。三つ四つ包んで了ふと、吸ひ入れられるやうな心持で、彼は家を飛び出した。

戸外へ出ると妙に秀子の身の上が氣にかゝる。

もう誰かしら自分より先に彼女の手を握りしめた者がありはしないだらうか。あの燃えるやうな薔薇色をした唇に胡蝶のやうに、接吻した者はないだらうか。縦な温かい樂しい夢の抱擁に、彼女の肉付の好い腰に手を觸れた者がありはしないだらうか。

——いろいろと小島は思ひを廻らした。せつないやうな、然し又挑られるやうな不思議な胸の戰慄がする。

何故か、じつとして默つて歩るいては居られなくなる。彼は獨りで、はしやぎ出した。はしやいで往來をきよろきよろしながら歩いて行つた。足が地を浮いて居るやうに輕い。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思へば秀子は今年十七になつたのだ。旅立つ前に見た彼女はまだ十四になつたばかりの、髮の毛のふさふさとした美しい、そして大きな目には情を含んだやはらかな輝きがあつた。よく彼が戯言を云つたり何かすると、きつと眩しさうな目をして、首を少し俯向け勝ちに傾げて羞かしがるのが癖であつた。とりわけ口元の此の上も無く可愛らしい少女だつた。薔薇のやうな匂やかな唇からは他愛もなくあどけない事ばかりを言つて居たが……三年ばかりも見ないうちに、今は何んなになつたらう。

『一體自分は何の爲に秀子のところへ行かふとしてるのだらう！』

小島は突然、秀子に向つて斯ふ云ふ思ひもかけないことを考へ出したのを自ら怪しむ氣になられた、擽ぐられるやうな微笑が自然とされた。

彼の灰のやうな六月の埃を浴びて町を歩いて居ると、少し取り逆せたやうに息くなつて來た。麻布の六本木に來ると、其の家の玄關を勢よく開けた。すると奥からばたばたと足音がして、さつと障子を開けたと思ふと色の白い顏が出た。大きな美しい目でにつと此方を見たが、どうやら驚いたやうであつたが、急にそはそはし初めて、

『あら！母さん、久雄さんがいらしつてよ』

と云つた。聽て奥から母親も出て來た。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『まあ、さ何卒お上りな』

三人は例の座敷に向ひ合つて座つた。

向ひ合つて見ると、全く彼女は大きくなつた。すらりとした肩の邊りや、稍高くなつた胸のあたりが思ひ切つて女らしくなつた。今時分の年頃が一番華やかな、一番樂しい血の湧き狂ふ、そして女らしい美しさと優しさとを見せるものである。

挨拶を濟ますと、彼女は立つて茶を入れてもつて來た。其の立つた時の後姿なぞは、如何にもすらりとしてゐて思ふが儘に發育した女の盛りを思はせた。

『で、何日歸つて來たの?』

彼女の母は小島に斯ふ聞いた。

『え、私ですか、昨日の夕方でしたよ』

彼は嘘ついた。何故此麽嘘が言へたものか彼自身にも分らないのである。

『ま、それは大變でしたね、』

氣が付いて見ると、秀子はじつと此方を、あの潤ひのある懷しい目で見つめて居るので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あつた。

と、小島も思ひ切つてじつと見てやつた。女が驚いて逸らさうとするのを、彼は飽く迄も追ひ廻すと女は眞赤になつて目を伏せてしまつた。

『ア、遂忘れてしまつて居た、秀さんに好い物を持つて來たよ』

斯ふ言ひながら彼は包を開いて持つて來た物を女の前に並べた。それを見ると、女は俄に晴々しい聲をして、

『あら嬉しい……どうも有難うよ、久雄さん』

と言ふのであつた。言ひながらも、よろこばしさうに其れを取上げて見た。

女は、目を避けるやうな風をしながら、折々そつと小島の方を見返しては、うるみのある深い目付をするのであつた。それは何か恐れて居るやうであるけれども、又訴へるところのあるやうな。……彼は女の樣子がわけも無く胸に響く。

小島は、たまらなく女が可愛くなつた。

單純に此の可愛いと云ふ――美しくぱつと咲き出た花の樣な明るい心持だけでも、彼には實に思ひもかけぬものであつた。此の心持は聽てたとへば、明方の波の音を聞くやうな柔らかな、何とも言へぬ靜かなものゝ中へ連れて行つた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

短いと言へば短い三年ばかりの月日は、瞬く間に秀子を女にしてしまつた。

『秀さん、お前は十七だね、今年』

『えゝ、さうよ、何故?』

『うゝん、何故でもないよ』

男はわけも無く女を戯弄つて見たいやうな氣になつた。けれども思ふやうな言葉がなかなか出で來なかつた。慿ふして漂泊を經て來た小島には、何うしても彼女に向つて、三四年前の正直な心持になることの出來ないやうになつて居た。

『ま、緩くりしておいてな。夕飯には何かおいしいものを御馳走しますから……』

と言つて母親は勝手の方へ立つた。——

二人になると、小島は何故か俄に打ち解けたやうな心持にもなつた。此の時小島は、自分に芽ざした或る心持ちを女に言ひ出す機會だとは知つて居たが、ふつと彼は斯麽ことを言つてしまつた。

『秀さん、僕は何處へ行つても妙に秀さんのことが考へられてならなかつたよ』

『…………』

小島は頷いたが、はづみで女の手をしつかり握つてしまつた。そして其の肩を抱かふと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。彼女は男に引き寄せられると、

「ああ――」

と、微かに息をはづませて、堪え得れぬやうに身を悶えた。

が、そつと青白くなつた顔を上げて男を見た。恐れを抱いて居るやうな訴へるやうな、深いうるみのある目で男を見た。

やがて女は、ふいと握られてゐた手を離されるとそのまゝくらくらと眩暈がして俄に青びれた冷たい心に返つた。魘えたやうに――口を堅く結んで肩で息をした。

二人は頭が暗らくなつた。――

女はもう一生甦ることの出來ぬやうな、又、明るみへ出て神樣の前で祈禱をすることも出來ないやうな悲しい氣が襲つた。而して最早涙や懺悔では取り返す事の出來ない哀しみの前に、身を投げ出して、恰も何人かの裁判を待つてゐるやうでもあつた。耻るよりも、寧ろ怖れた。

男は又男で不思議でならなかつた。女をたゞ可愛がつて居た筈であつたが、欺された樣な佗しい氣もする。

やがて二人は平日の心にかへつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其處へ挨拶もなく玄關を明けて、づかづかと誰か上つて來たやうであつた。秀子は立ち上つて其の方へ行かうとすると、其處の襖のところで、

『大野さん』

と言つたが、恐ろしく慌てた風をして耳の根まで赤くした。大野と呼ばれた男は何氣無く室に入らうとするとぴつたり小島の視線と合つた。

『あ』

と男は聲に出して、其のところへ躊躇してゐたが秀子が何か囁くと其のまゝ茶の間の方へ行つた。茶の間の方では女と囁く男の強い聲がした。小島はきつとなつた。何だか知らぬが、自分を振り捨てゝしまひ度い程うらびれた心が起つて、行きほぐれた樣な淋しさが迫つて來た。而して女の爲に陷れられた心持ちがして憤怒の情にかつとなつた。

『畜生!』

あても無く口の內で罵ると、小島は冷やかな笑みが自然と口元に動いた。

『今の男は誰だらう?』

恁う云ふ疑惑が霧のやうに小島の周圍を取り卷いて起つた。案內も無くづかづかと上つて來て、あゝして女と親しさうに話をする所を見ると、餘程家の者とも馴染んで居るらし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い。……

女は中々室に戻つて來ない。

小島はいらくして來た。うまく欺された樣な心持ちもする。彼はやけに興奮した。此の儘そつと歸つてしまつてやらうがとも思つた。けれども自分が考へてる程直截な勇氣が出し得ない。何處かにまだ未練があるやうだ。

彼はふと立つた。何の氣も無くち立上つた。立ち上ると其の儘ふらくと引きずられるやうに、寧ろ蹌めきながら歩き出した。而して茶の間との境の所に來ると、そこの障子にそつと寄り添つて耳を澄ました。然し物音のみで、人聲は更にしない。

小島は忽ち自分の身を顧みて怖れた。そして耻ぢた。あはたゞしく、もとの蒲團の上に返つた。

其處へ秀子は來た。女の姿を見ると小島はいきなり、

『今の男は誰?』

と言つた。其の言葉は隨分亂暴だつた。

『學校の先生の弟さん』

『ふん』

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小島は何か一言言つて冷笑してやりたかつたが、適切な言葉が見つからなかつた。

『うん分つた、彼男だらう！秀さんが英語を敎はつてるつていふのは。ふん何だ』

言ひ終ると、彼は自分の弱味を見透かされた樣な心持ちがした。彼は女を憎む心と共に自分を冷笑した。今日此處へ來たことが非常に悔ひられた。

俄に彼は立ち上つた。

『僕はもう歸るから、母さんによろしく言つておくれ』

と然しやさしく言つて小島は女を見た。

『まあ久雄さん、いゝわよ』

目に力を入れて云つたが、ひどく狼狽へたやうに見えた。秀子は玄關まで小島を追ひかけて來た。

『ね、いゝんでせう、何か御氣に觸つて？』

其處へ母親も慌てゝ出て來た。

『何うしたの、一寸御待ちなさいよ』

『もう支度も出來たのだから……』

『いや僕は夕飯を御馳走になりに來たんぢやないんですから、……又來ますよ』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二人の言葉を冷たく胸に受けて、小島は驅けるやうに戸外へ出てしまつた。

『さようなら……』

と挨拶をして、親子が頼むやうにして止めるのも聞き入れず急いで行つてしまつた。

……電車に乘つてからも、彼はうつとしく今迄の心持ちが霧のやうに襲つて來る。如何思ひ返しても女が憎くてならなかつた。欺いて自分に唇を吸はせたのが憎くてならなかつた。

然し歸り際のあの二人の狼狽へ方――殊に秀子の慌てゝ取り亂した樣子を思ふと、そうそれだけで何か復讐が出來たやうであつた。

小島はふと女に對して、更にあの男に對して勝利を得たやうに考へられた。が、それと共にさつきの接吻も、すつかり醒めてしまつて、甘さも樂しさも口にはなくなつてしまつた。(舊作)

宴の後——原阿佐緒——

宿世さへおなじき人のまのあたりかくもめでたき日に會ふを見る

われに似る寂しきをみな子を捨てゝ嫁ぎ來るてふ夜の雪よかなし

子に別れふたゝび妻となる君よ君よさすがに寂しからまし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

君思ふ故にぞ流る祝歌に淚まじるは不祥なれ
ども

晴やかに着よそへるその姿こそ別れし子には
魔とも見ゆらめ

人の幸ねたむともなき寂しさに目くらむ如し
さかづきをとる

酒の香をふとなつかしむ出來心とは云へかな
し寂しあさまし

醉ひもせば忘れ得るやと思ふこと女の吾もも
てるかなしさ

もの狂ひ女しからず酒を思ふ捨て身心の泣かまほしかり

かなしくも自棄が強ふなる酒杯に心あやふく盲むとぞする

ひと吸ひの酒に頬の染むかなしみを忘るゝまでを酔はゞ死ぬべき

われとわがにがき涙を吸ふごとく寂しや酒に爛れし心は

あるまじきことやと悔いぬ涙しぬ酒に高鳴る胸をいだきて

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

吸ひのこる酒の雫にふと湧ける寂しさ故に君
思ひ出づ

君ならぬ若き男にさかづきをうくるそれさへ
寂しきものを

うちかへし吾もやる戀のさかづきと云ふにも
あらぬかりそめのもの

生きながらはふらしめなむ女にて美しくこそ
酔ひ伏せる間に

今寂し男の前にほのかなる酔ひ心地してあり
しことなど

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

酒ほがひ宴のはての寂しさに身を嚙まれつゝ
わが醉ひは醒む

何事の暗示ぞ燭は涙して宴の後を吾にむかへ
る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

目黑から——岩野清——

明子樣、あなたは雜誌にあらはれる時、常にらいてうと云ふ號を使つてゐらつしやる。私は號と云ふものがきらいです。らいてうと云ふ語にどんな意味があるのか私はあなたから伺はうと思つてゐますが、何時もお會ひする度に忘れてしまつてつい今日まで伺はずにしまひました。然しどんな意味があるにせよ、私は今日號と云ふ第二の名を使用する必要はないと思ひます。で、私は特に明子樣と書き出します。

明子樣、先夜創作に就て色々のお話が出ましたね。其時あなたは、私が他人から聞き傳へた事を書くと云ふのを感心していらつしやいましたね。そしてあなたが、小說を書かうと思ふけれど、書くとすれば尤も自分のよく知つてゐる世界、つまり自分を中心にしたものでなければ筆がとれない。自分の事を書くとしても、其當時の自分と、今の自分とは氣分も違ふし、刹那の感情は其場々々で湧いたり、消えたりするものだから、結局、今書くのは、其當時の氣分の想像で眞の事實ではない。其上事件の聯絡上自分の書きたくない興味のないことも出てくる。私が小說に筆をとらうとして躊躇するのはこの爲めです。

大體から云ふ意味でしたね。

勿論、自己を書くにしても、他人を書くにしても、あなたのおつしやる通り、一點の想像もまじらない事實と云ふものはありますまい。人間の氣分が刻々に動搖してゐるものである限り、自己が自己を見るにしても、昨日の自己が、今日の自己であるとは云へないでせう。其今日の自己が昨日の自己を觀察するのは、眞の昨日の自己であるかどうかと疑へばきりのないことです。まして自己以外の人を書くと云ふことは、いくら自己と接近してゐる人にしてゝ、他人の心理を、醫者が死體を解剖するやうに正確に科學的に一點のあやまりもなく描寫することは出來ないにきまつてゐます。そこで只作者の人生に對する智識にたよつて比較的事實に近い想像を土臺にするより仕方がないものだと私は思ひます。

そこで、作者の見た世界が狹ければ、勢い作の上にも狹い世果しかあらはれなくなります。人生に對する智識が淺ければ、作もまた淺薄なものになる道理です。たとへ小主觀を出さないにしても、結局作者の目で見、作者の頭腦で觀察するのですから、作者の頭腦が作の上に影響するのはまぬかれない事です。假令、人物の心理に立入らず、平面描寫をするにしても、作者は自己のまるつきり知らない世界、理解できない事件を書くことは出來ないのですから、結局、自己の理解する、してゐるやうに描さうとするでせう。どうして

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も作者は作の裏にあらはれます。

明子様、私はかう考へます。私は創作をするのが、自分にはまだ早い、もつと頭腦に智識をためて、廣く世間を見てからでなければ到底深刻なものは書けない。と思つて創作も休んでゐます。然しあなたのやうに、事實に近い想像でも、想像で書くのは恐ろしい様にお思ひになつては、何時までたつても創作をなさる時はありますまい。一寸の世界を見ても、すぐそれを作にしやうとする人も輕卒すぎますが、あなたのやうに臆病に大事をとりすぎるのも深重ではありますが、却て深重すぎて何も書けなくなるでせうと思ひます。

明子様、此間某雜誌の記者が參られまして新らしい女のこれから履んでゆかうとする道に就て私の考へを聽きたいと申しました、私はそれに對して大要こんな答へをしました。醒めたる女性が、これまでの女性の型を破つて獨自の道を開いて行かうとする以上、所謂新らしい女性の型と云ふものはあり様筈がない。型があれば既に新らしいものではない、で一様に新らしい女性とは云つても、私の自我と、平塚氏の自我とは必ず一致するとは云へますまい。又一致する必要はない。一致しなければ自我の充實が得られない譯でもない。丁度容貌が各人各個に違ふやうに、自我も各人各個に別々な要求があるだらうと思ふ。そこで自我を認めた人々に孤獨の淋しみがまぬかれないことになる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然し、淋しくつたつて、苦痛だつて、それがために、自我を沒して、世間の所謂幸福な平和な生活に眠つてゐたくはない。眠つてゐやうとしても眠つてゐられなくなつてしまつたのです。醒めて見た現實の世界には、永遠もない。幸福もない。絶對不變の愛もない。過古もなければ、未來もない。只幾何學で云ふ點の樣な地位あつて大いさなき、現在と云ふ瞬間に生命を托して、一寸先の見えない暗黑の現實と云ふ世界に突進して行きつゝあるのです。さうして走りつかれても、身を休める木蔭もなく息きのある間は絶えず動いてゐなければならない。思へば何と云ふ不安な、苦痛な事でせう。

然し今更母親の體內に引返す事が出來ないと同樣、私は此淋しい道から引かへす事も出來ないはめになつてゐます。其間に又私の周圍に色々の敵があらはれて來ます。親族、縁類、それが折々私の道に立ちふさがります。私はかう云ふ周圍の敵と惡戰苦鬪します。少しでも自分の歩く道を狹くされまい。出來るだけ自分の領地を廣くして他のものに犯されまいと爭ひます。そこで私は傷ついてたふれるか、相手を倒すかするまで鬪ふのです。

「さうして行つて果してどうなるでせう。又それが幸福でせうか。」

記者は又こんな問を發しました。末がどうなつて行くか、そんな事は誰れにも分るものぢやない。どんな智者だつて此解決をつけ得るものぢやない。人生に解決と云ふものはな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い。若し強て解決をつけるならば、死より外にない。と私は答へておきました。とかく世間の人は解決の方ばかりを聞きたがる癖がありますね。

又幸福などゝ云ふ事も、我々醒めた人の世界には、少なくとも私の世界にはない。只夢の中にのみある言葉だと思つてゐます。生の爭闘の瞬間に、自己の最も緊張した時に、限られたる満足があり得るだけである。

記者との問答はこんな事で終りました。折があつたらこれに就てあなたのお考へを承りたいと思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

詠草

岸照

うらさびしわが變心のをかしさも大天地にさゝはりなきか

いとはしとなやましげなる此の君の戀の疲れのうつくしきかな

弟と君をめでたるわが不覺仇名立てるもをかしからずや

別れ來て霜の板橋渡るとき我が足音のいとゞかなしき

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

紅き灯の浪華の町のなつかしや芝居に殘るよき思ひ出に

青井禎

ふと暗き心となりてすゝりなくわれにも似たるにぶいろの雲

死ぬること恐るならねど涙さへかれて冷き身の惜きかな

みだれ咲くほしいまゝこそうれしけれ淋しき野邊の野菊の花も

兒島てるを

野のはてにこの呪はれし乙女草幾代の後の春にかほらん

二十二をあはれ女の世にすねて書よむ秋の長き短き

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新らしきかなしみ來よとまつごとくその夕より經よむ少女

片野珠

命ともなげきし戀のはてを今忘れし酒によろこびて行く

女二十何に餓えたる叫びぞと戀をのろひし日もありしかな

古き血のかぐろきさまにうとまれし三十路の戀もなほすてかねつ

僞りの君をいだきて永久に小鳥のごとくうたはんもよし

戲れに戀する人は幸なりと此頃せちに思ひそめてき

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美しき花を咲かせて摘みすてゝかへり見ぬ人なほ追はれける

わづらはし兄弟なんど呼ばれむはむしろこの戀このまゝ死なむ

岩淵百合

氣まぐれのこゝろいつしか傾むきぬわれ死を思ふひとゝきの後

かの誇りあくたの如くなけうちて死を思ふときこゝろ安かり

わがこゝろまどわず君とひた奔るくらがりの道とぼとぼはしる

あはれなる生命のはしの烙印に心おびゆるせんすべもなし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あぢきなし女王の國のきざはしにわれ自らの
おとろへを知る

執拗くもがのまぼろしは蛇になりくちなわと
なりわれを取まく

ほかのこと思はす戀に生くと云ふ尊きこゝろ
悲しき心

白き灰くづれて歎く夜のしゝま沈默はてなく
君をおもへる

手拍子に戀の反古歌まきちらしこゝろおごれ
ば白梅のさく

あまりにもあさましうして夢ながら涙こぼる
ゝ我身うとまる

青木　穰

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

君をおもひなきてやつれし黒髪の人かきおこしうちしこの手か

うちつけにみ胸にすがりすゝりなくなみだのうちにゆめがたりする

夢の内にさゝれしむねをなでゝみつ土の中にも似たるま夜中

まじ〳〵と闇にうごめく小鳥とももろ袖まろうひとり居の夜

黒檀の机つめたし面ふせてなげけばおもひのすこし靜まる

あけがたのねやにきてたつ美しき春のまぼろし花のまぼろし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

わが胸に泣きねいりせしかた頰にぬれて亂れ
しくろ髪いく筋

わが死なば我如き人もととむやとのたまふに
いとゞ涙ながるゝ

小鳥きて君が心の赤き實をときについばみゆ
くが悲しさ

くろがねの輪のなかにしも身をおきて大天地
のみゆるもうしや

くちをしきか何かはしらず涙おつとらはれ人
の我とおもふとき

小さなることに驚きなみだする性故いまもす
てられずあり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一年間 ―らいてう―

これは小說ではありません。小說だとは決して思つては居りません。でも他人が小說ぢやないかと言ふなら別段爭はうとも思ひませんが、私自身は小說を書かうと云ふやうな意志があつて筆を執つてゐるのぢやないと云ふことを申して置きたいのです。といふのはこの記錄は私の近き過去に於てる、又今日もなほ繼續しつゝある一聯の經驗を明瞭にし、經驗に對する把住力を確實にし、いつかは忘却の淵に葬り去られやうとする記憶を保存し、他日の研究の材料——他日女性みづからによつて、成就せられる女性研究の一材料ともしたいと思ふので厶います。大分長いものになりさうですが自分は果してよく書きおほせるかどうかも今は疑問です。只、今日の私として出來る丈の內省を以て出來る處まで書いて見ます。一度はかういふものは世間に發表すべき性質のものではないやうにも考へられました。又今日は發表すべく時を得てゐないやうにも考へられました。けれど今これを書いて置かなければ私はもう永久に書く氣が起るまいと思はれますし、よしかく氣があるにしても書けまいと思はれます。そして一方で發表していかないと容易に何も書けませんから、あらゆる事情を排して書き次第、發表することにいたしました。

明治四十四年十二月二日の夕方だつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二三日怠つたので郵便物が澤山たまつてゐるだらうと私はS社へ出掛けた。社には毎日のやうに日本全國の文學好きの若い女から――時には男もあるが――色々の眞面目な又不眞面目な手紙や葉書が舞ひ込むのだが、其日も果して六七通來てゐた其中に小さな楷書で、特に私宛にした重い封書が一つあつた。裏を返すと大阪何區何町、何番地、何方、何某と叮嚀に書いて宿所にも、姓名にも框がとつてあつた。もとより聞きも知らぬ他人だが一寸變つてゐるので開封する時から一種の輕い好奇心を覺えてゐた。

『Sの發行されたのは東京にいた時分から知つてゐました。

私は或る朝一枚の生々しい活字のならべて有つた葉書を伯母に渡しました。

伯母は不思議そうに何某殿(ちやんと姓名がかいてあつた)。と書かれた字を見て、そして裏を見て其生々しい活字の上を數へてゐました。(S社で雜誌Sの直接購讀者を增さうがために婦人々名辭書中の婦人宛て丶勸誘の葉書を出したことがあつた)。そして珍らし層にのぞき込むでゐる私の顏を見て、

「――さん讀むなら毎月とりますよ」。といつて來(吳れ?)ました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私には珍らしい女の人達の集りから離れたく有りませんから。

「えゝ伯母さん御讀みになつたら………だけど伯母さん？　面白そうですね」。と優しくいつて來れた伯母さんを無性に有難く思ひました。

私は其の日から最うSを讀んだつもりでS同人らしく私の凡ては動きそうになりました。

それつきり私と伯母の間にSの話しわ出なくなりました。

私はそれでもなほSが讀みたいでした。けれどS社から通知の來た人以外に私はこの雜誌が讀まれぬものと思つてゐましたから、それかと言つて食客の私として義理的に洩らして來れた人の前に出て再びSの事を催促するのわいやでした、私として、こんな事で頭を下げるのわ死むでもいやです。

それつきり私は——泣きね入りの様にSといふ私の心を動かしたものと離れて來ました。

それから幾日かの後、私は來年の十二月の卅一日迄伯父の家から離れて大阪のまちに歸へる事になりました………。

大阪には私の父と母と二人の妹が住むでゐます。私は去年の十一月、此大阪の女學校を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

出て——伯父の家に食客となつて日本の書を研究してました………。

歸へる日の前の日私の新らしい友達が二人訪ねて來ました。

そして話の途中………今迄忘れかけてゐたあのSの話が私の鈍くなつた神經を襲つて來ました、その友達は佛英和のAと呼ぶ人です。

そして自分もS社へ入社したから是非私にも入社する樣に進めました。私は私の心から離れかけたSの又だん／＼私の圍りに近くなつた事を友に迄悅びました。

然し………私は入社せずに大阪の町に歸へりました。私は只口惜しく思ひます。

そして其反動の樣に心齋橋の難波の本屋迄毎日の樣に行つてSをさがしました。けれど私の歸つた十一月廿九日といふ日が遲かつたためか一册もSは——有りません、私は泣きたくなりました。

けれど來月號からは私は本屋のおかみさんにかたく談じて一番に私の家にまでとゞける事を約束しました。おかみさんも私の小供ぢみた口ぶりに………餘程困つたらしい。

私は來月からいよ／＼Sの讀まれる——一人の女の仲間になりました。私はこれで入社が出來たのですか？　本を毎月とつたのが入社したといえるのですか？

私には一號から讀んでない悲しさにそこの處が一寸わかり兼ねます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は別れる日の友の「入社した」といふ言葉が耳について忘れない。
私は入社を欲します。
その爲めにこんなつまらない事を長たらしく書きました。
馬鹿氣た事ばかりよく恥かしくもなく書きました、けれど私を僞ることは私の様な人間には到底出來ません。私はそれで遠慮もなくこゝに此手紙を送ります。
此の手紙をかき終る時に——東京のいつかの友！　入社した友からこんな手紙が來ました。

自己といふ者を忠實に發表することが出來る（入社してから）

と書いて嬉むんで來ました。
私も一日も早く忠實に自己を發表して見たいと思います。
入社するについて——を少しばかりきかして頂きたい。
それについて私は返信料を添え様と思いました。けれど又、私の我儘から打消しました
……なんだか、さも返事がほしそうな奴——と思はれるのがいかにも殘念ですから。
我儘な——無作法な此の手紙笑つて讀まないで下さい。
又來々年東京に歸つた時か、又不意に東京に遊びに出た時にはキット御目にかゝつて私

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の幼稚な口ぶりで御わびする時が有りますから。

さよなら。

大阪のまちから

四四、一一、三〇夕方

何某

S社にて

R――さま

中央新聞のCといふ書をかく人が或る日の夜Rさんに紹介しやうといつた事がありました、けれども私はその時――まだ人らしくもない私が紹介されたつて――赤恥をかくばかりですと――いつた事が有りました。』

私は妙な人も居るものだと何とも判斷のつきかねる氣持がしたが、二度目を通した時はほゝゑますにはゐられない箇所が多かつた。こんなに委しくSを知るに至つた經過を書き立て、こんなに子供らしい熱心を以てSを讀みたがつてゐる人に出逢つたのはこれが始めてだ。その癖、まだSを一冊として見たことも、讀んだこともないといふし、只一枚のSに關する葉書を見た丈でその日からS同人らしく動きそうになつたといふのも面白い。それはかりぢやない、友達が入社したから、そして其友達が自己といふ者を忠實に發表することが出來るといつたから自分も入社して一日も早く自己を發表したいといふに至つては

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分にはます〳〵おかしくてならぬ。こんな感情的な、輕率から入社されるのかと思ふと困つたものだといふやうな氣もしたが、又、どこか男らしい下手なやうでもあり、又上手なやうでもある一種獨特な書風に似ず、其の心の働き具合のいかにも女性的なのが、中學あたりの野次の懸命な惡戯ぢやないかと云ふやうな或疑惑を取除いてくれた。

一體、Aといふ社員がほんとにあつたらうかと私は社員名簿を繰つて見た。あつたにはあつたが、まだ一面識もない人だ。只ノラに就いての感想として「私はどう考へてもノラといふ女は大好きです」といつたやうなたわいもない可愛いらしい事を二三枚書いて送つて來たことゝ、下町趣味の一寸した詩をよこしたことがあるといふより外この若さうな娘に就ては何も思ひ出すことが出來なかつた。

中央新聞のCといふ人を考へて見たがそれは自分の全く知らぬ人だつた。

隣に机を並べてゐるM―に手紙を見せると、大ざつぱに目を通して「變な人ね」と又云つてくれた。私は家へ歸る途中、返信料を添へやうと思つたが、なんだかさも返事がほしさうな奴――と思はれるのがいかにも殘念だからやめたと書いてあつたのをふと思ひ浮べて獨りほゝゑんだりした。

併し私は返事を書くことについては一種の警戒をした。そしてとうとその儘に捨てゝ置

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いた。まだ心の一隅にこんな疑惑もいくらか動いてゐたので。「私には珍らしい女の人達の集りから離れたく有りませんから」こんな言葉は容易にたゞの女の口から出るものぢやない。甘々と返事を握らせて、舌を出されるのはいやだ。

ところが五日目に又手紙が來た。

「過日は殊の外、失禮なる文御目にかけ御立腹のことゝ思つて居ります。强さうに書き連ねのが今更なんだか氣にかゝつて來ましたから前文取消して御わびいたして置きます。

師走四日朝　　　響　音

R——様

私は先とはあまりに變り果てた態度に驚くより、まづ其書體の全然別な、思ひ切り大きな癖の多い行書で、ばらつと書いてあるばかりか、名まで變へてゐるのに少しまごついた。そして「人を馬鹿にするな」とでもいつてやりたいやうな、「もう何と言つて來たつて誰れがかまひつけるものか」。と云つたやうな腹立しさを覺えた。こんなことを言つて來て、何とかして手紙を貰はうと言ふのかも知れないとまで氣を廻した。けれどあの手紙に對する返事を子供のやうに待ちに待つた揚句、とうと來ないので色々と氣を揉んであんまり書き過ぎたから先方が怒つてゐるのぢやないかとでも眞實考へたのかとも思ひ直して見た。自分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にもかういふ經驗はよくあるから、尤も自分は一々取消文を書くことはしないが。けれどまだ私は返事をやる氣になれなかつた。

二

捨てては置いたが、忘れはしなかつた。

あの男とも女とも分らぬ人――あれは一體何者だらう。男でもいゝと思つた。女でもいいと思つた。あの儘でだまつて仕舞ふ人だとは思へないが、自分のなげやりから永遠に取逃すやうなことがあつては何となく惜しいやうにも思はれた。

其內、偶然にもAに逢ふ機會が來た。それは十二月九日の社員會の時だつた。一番後れていそ〳〵とはいつて來た十六七の袴を着けた、まだ身體の極らない瘠せた娘さんが神經質らしく眼を光らせながら口早に「わたくし、Aです。」と言つた時、自分はすぐ手紙を思ひ出した。ずつと根を下げて、頸筋の處で束ねた髮を見た時、「その友達は佛英和のAと呼ぶ人です」と書いてあつたのを眞實だと思はずには居られなかつた。「あなたは佛英和へ行つてらつしやる人ですつてね。」と言つて見た。これをきつかけにや分らぬ人のことを訊いて見やうと思つたので。

Aは年上の私に對して、しかも初對面だのに憶面もなく、浮々した調子で口數多く話し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てくれた。そしてこれ丈のことが分つた。

Aの友達だといふこと、男のやうな女だといふこと、大變身體が大きいといふこと、聲が大きいといふこと、そしてあたりかまはず何でも言ふから一緒に往來を歩く時ヒヤ〳〵するといふこと、白秋の詩が大好きだとか、白秋に逢つたとか、逢ひたいとか云つてるといふこと、今年十九だといふこと。

Aは最後に「そりやあ隨分變つた女よ、恐い女よ」と言つた。

子供のやうなAの言ふことだと一方では輕んじながら、何故か私には、その女が、何もよく分りもしない癖に生意氣な、吐き出したいやうな厭味な、獨り得意がつて、平氣で人を惱ますやうな圖々しい女のやうに思はれて或反感を抑へることが出來ないほどだつた。

そして私はそんな女と係り合ひになるのを不安に思つた。恐ろしいと迄思つた。けれど好奇心は却て亢められてゐた。それに確に女だと知つたことはあの手紙が眞面目に書かれたものだといふことの證據を得たと同じやうな氣がした。そしてそこにいくらか心を許すことが出來た。

で、返事を出したいからと言つて、改めてAに大阪の宿所をきいたりした。

けれど無性ものの私は矢張り容易に筆を執ることはしなかつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三

或日、社へ行くと、Mーが澤山の郵便物の中から一枚の葉書を取出して、「又あの變な人から、ほら大阪の、あなたの所へ葉書が來たわ。」と言つた。その聲には冷たい嘲りの響があつた。私は少しあわてて氣味に受取つて、眼を走らせた。

「S社へ――私は入社致します。今日から、私はS同人で王國を作り上げる其の群と一緒にアブサンドを飲める事を悦ばしい事と思ひました。本月號、エミヤ書房のおかさんは約束を履行せないで――まだいきまへん――と私に幾度も斷りました――私は働きたい。今月のSはまだ大阪の町では――讀めないと考へると――目が曇る樣です。」

それから括孤の中に小さくこんなことも書き添へてあつた。

「五日の朝から明石の漁師町へ行つてゐます。今、大阪の街へ買物に來たまんま、入社の事、あらためて。」

「原稿か、白紙か、解らない樣なペイジの斷合せを送りました。御らん下さい。」

「はあ、改めて入社か」と私は心で笑つた。それが又豫期通りのやうな氣もして快くもあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つた。アブサンドを飲めることを悦ぶ云々は少々厭味だか、返事がないので獨り極め込んで來たところなど何處ともなし可愛い處もないでもない。泣きないの目が曇るのは誇張に過ぎて空々しいとしてもこんなSを讀みたがつてゐるのに捨てゝ置くのも氣の毒だと思つた。

私は其日家へ歸ると、いよ〳〵手紙を書いた。御入社を承知した。あなたのやうな若々しい元氣な、そして熱心な社員(私はわざと同人と書くのをさけた)を得たのを心からよろこむでゐる。あなたのことはもうAからきいた。Sが大阪の書店にまだないとは驚いた。實は最初は社から直接に梅田の――館に送つてゐたのだが、金を容易にくれないのと面倒なのとて止めて、――堂の方からとつて貰ふことにしたのだがないとは困つたものだ。十二月號を早速送りたいが、今社にも一部もないし、私も持ち合せないから、ともかく創刊號を送ることにした。S社の規則が載せてあるから是非見ておいて下さい。それから發刊の辭にかへて私が書いた「元始女性は太陽であつた。」も一讀して頂ければ幸だ。あなたは畫家のさうだが、社員の中にも日本畫をかく人も、西洋畫をかく人も一人二人ある。その人達にもたのむでゐるが、あなたも一つSの表紙をかいてはくれないか、素晴しいものを書いて貰いたい。その中で一番いゝのをつかひたいから。といふやうな意味のことを書い

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。そして最後に大阪の社員の名と住所とを知らせて、御暇の時訪ねていつて御覧なさいと附け加へた。たしか十行、二十字詰の原稿紙二枚足らずのもので、私が始めての人にやる手紙としては、出來る丈くだけた、親しさを見せた積りのものであつた。

書き終つた時、私はともかくもかういふ變り者の入社を喜んだ。案外平凡な手答へのない女ばかりを網羅したやうなS社に飽き足らなかつた私はこの新入社員の上に多くのことを我知らず期待してゐた。そして原稿の來るのを待つともなしに待つてゐた。

二三日して私からのと行違ひに左のやうな手紙が兵庫縣の垂水から來た。

「漁師町に歸村しました。私は原稿を大阪から出されなかつた事を悔いてゐます。葉書を出した晩でした御送りする心組で枕元に用紙とインクを置いて寢たんですが朝八時迄眠過して大急行で歸つて來た樣な有樣、悪からず御赦し下さい。今夜こそ寢むらず夜通しかき續けて見樣とは思ひますが――送れたら賞めて下さい。なにしろ生後十餘年間ほとんど初めてといつてかまわない程私は――用紙に接して見る人です。

原稿用紙の線の色さへ私には見えない有樣それに――わくを探して字を入れ樣なんか失敬千萬な野蛮ですが何分に御批評を辛く遊ばして下さい。今後は少しづゝ用意をして賞

めて頂く程の者となつて御拜眉いたしたいのです。餘は萬々後便にゆづります。特有の大亂筆は幾重にも御容赦遊ばして下さい。Sも一度も知らないで原稿かく無法者を惰ないと思つて下さい。」

今度は欝音の欝の字の下に口がなかつた。私は何だか馬鹿にされたやうな氣がした。滑稽でもあつた。知りもしない人に何でもかでもよく言ふ奴だとも思つた。そしてあまり注意も拂はずに手紙を放り出して仕舞つた。

原稿は正月が來てもとうと來なかつた。

私ももうそんなことをあてになどはしなかつた。その中に殆ど忘れて仕舞つた。

——未完——

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■正月十一日のジャパン、タイムスにらいてうが中央公論新年號に書いた「新しい女」の英譯が出た。なほ譯者は其はしがきとして日本に於ける新しい女の簡單な紹介をも試みてゐる。ここにその總てを掲載して、ジャパン、タイムス記者にして、譯者たる花園定氏の勞を謝す。

THE "NEW WOMAN" IN JAPAN.

MISS AKIKO HIRATSUKA TELLS WHAT SHE IS AND WHAT HER ASPIRATION

She will create world for herself and prescribe its laws and morals

The principle followed in the education of women was at one time in Japan to make them good housewives. To-day, however, the economic conditions have altered, and have accordingly changed the object of the education given, which now aims at fitting young women to gain their own living. In consequence, the are becoming professors, doctors, writers, musicians, officials, journalists, shop assistants, nurses, etc. They are not allowed to and do not live idle lives, but the tendency is for them to engage in outside pursuits, because they prefér independence and economic freedom to everything else. These young women are hampered in no way in living their own lives as they see fit. The have become their own moral mentors. They make their own personal living codes.

Here is a traslation of the serious confession of Miss Akiko Hiratsuka, a pioneer of the Japanese new woman, which appears in the *Chuwo Koron* of January. It may be of no little interest to foreigners.

. . . . .

I am a new woman.

If I am not a new woman I wish, and am endeavoring, to be one.

It is the Sun that is ever fresh and true.

Then I am the Sun.

If I'm not the Sun, I wish, and am endeavoring, to be it.

. . . . .

Glorious and brilliant is the virtue of the Sun who is ever fresh.

. . . . .

Yesterday is cursed by the new woman.

She is too self-conscious to tread the way the slavish woman of the past have gone.

New woman will not be the slave and the plaything of man. She determines herself to destroy all morals and Laws established by man for his sake.

But the old ideas and thoughts that were at the core

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

of the old life still hamper the new woman. If she is idle today, yesterday's belief may assail her.

New woman is day and night fighting to destroy traditional beliefs and ideas.

She is changed back to her former self, the moment she is off her guard.

. . . . .

I am a new woman, the Sun, the single one on earth; if I am not, I wish and am endeavoring to be each of them.

. . . . .

New woman desires not only to destroy old morals and laws founded on man's selfishness, but to establish within her soul a kingdom of new religion, new morals, and new laws, by means of the brilliant virtue of the Sun, who is ever fresh.

. . . . .

The vocation of new woman is to create the new Kingdom of her own within her soul.

Then, what is the new Kingdom the new religion, and the new laws?

New woman, however, does not know yet what they are.

She studies and endeavors to attain her end.

. . . . .

It is power that is wanted by the new woman—that she may attain her end and fulfil her destiny.

New woman does not adore beauty nor virtue. It is *power* that is wanted by her, that she may be able to realize her own Kingdom.

■前からの希望であつた講演會も、いよ〳〵今月にひらく事が出來るようになりました。熱心な先生方やみな樣の御盡力に對して、心からお禮を申上ます。

■今私達の間には、これからやつて行かうと思ふ仕事について色々と相談を取りかわしてゐる最中で厶います。今二三ヶ月の後には内も外もすつかり、ととのふ樣になることゝ存じて居ります。

■先月の編輯室はにぎやかでしたけど今月は隨分淋しう厶ります。講演會のことでらいてうと野枝さんは毎日出歩いてゐますし紅吉は切符やびらのことで思案してゐますし、編輯室には中野の小母さんと勝ちやんと二人きりで雜誌をまとめてゐます。したがつてこゝへ書くような氣のきいた(?)こともありません。あんまり淋し過ぎて、又おとなし過ぎて、鼠にひかれなければよいがと思つてます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

附録

新らしい女、其他婦人問題に就て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

婦人問題の解決——福田英——

○

何か書けとの御催促に接しまして、何か書かねばならぬと思ひながら、何も書かずに延引致し、申譯ありませぬ。私は貴女方の御事業、御境遇、御立場に深く〳〵同情して居る一人であります。で、私の樣なものにでも出來る事がありましたなら、ドンなにでも御助け申したいと思ふて居りますが、今日まで長い間の失敗の生涯から流れて來る多くの障礙に支へられて、手も足も出し得ぬ境遇に惱んで居るのです。ドウか一陽來復の時期を待つて、貴女方の驥尾に附し得る樣な生活を開拓したいと心懸けて居ります。

○

婦人問題の解決に就きましては、貴女方に於て既に御精はしきことと存じますが、老人には老人の人生觀がありますから、其れを少しばかり申上げましやう。併し年は老りましても、ドウか耄碌はしたくないと思ひます。唯だ若き日の誇りを顧みて、今日の貴女方の御有樣に想到すれば言ひ知れぬ感興も浮び又た自分も流石に變つたものかなと感ぜられる、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

節が尠くありませぬ。其變つた感じが、即ち老人の感じであり、やがて其れが青年に對する老人の特權であると思ひます。大そう老人の冷水を申上る様ですが、マア聽いて下さい。

○

婦人問題と申ても種々な方面があります。教育の方面、政治の方面、經濟の方面、戀愛の方面等、凡そ人類生活の總ゆる方面に關聯して居ると言はねばなりませぬ。併し斯く種々なる方面に關聯して居るとは言ふものゝ、之を約言すれば婦人解放と言ふことに歸着するでありませう。婦人は果して解放せらるべきか、若し解放せらるゝとせば如何なる狀態に解放せらるべきか、而して解放とは抑も如何の意味を有するか、此問題にして解決せらるれば、婦人問題は解決されるのであります。

○

第一、解放とは如何の意味を有するか？　先づ此點から愚見を申上げませう、私共が熱狂した自由民權運動時代には婦人問題と言ふことは單に男女同權の一語を以て盡されて居りました。至極單純な思想であつたには相違ありませんが、併し、今日に至りて別に新しい深い思想が現はれたとも思はれませぬ。女を男に對して解放すると言ふ場合には男女同權と言ふ以上には一歩も進むことは出來ぬものであります。此意味に於ける婦人解放は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

相對的のものであります。男子に對照するの思想です。婦人參政權運動の如き、婦人高等教育運動の如き、婦人公職の問題の如き、皆な此意味に於て起されるものと見ることが出來ませう。併し、私は此相對的意味の運動を單に手段として、更に絶對的の婦人解放が行はれねばなるまいと思ひます。實は其絶對的の解放が主眼となりてこそ前述の相對的運動も始めて意義あり生命あるものとなるのでは有りますまいか。然らば絶對的の解放とは如何なる事でしやうか？絶對的の解放とは婦人としての解放ではなくて『人』としての解放であります。婦人の自由では無くて『人』の自由を實現することであります。單に法律的、道德的、慣習的束縛を破壞するばかりでなく自己心內の束縛を擊退して無礙自由を體得することであります。故に是れは婦人問題ではありませぬ。人生問題であります。宗敎問題であるとも申されます、私は人としての婦人の問題を解決するに、玆に其第一義締を定めて置きたいと思ひます。

○

第二、然らば婦人は其樣に解放せらるべきものでありましやうか？私は然りと申ます。らいてう樣は『自分は太陽である』と言はれましたが、總ての人が其覺悟さへ出來れば其れで宜しいのです。是れは單に婦人ばかりの問題ではなく、男子にも其覺悟が出來ねはな

りませぬ。婦人の解放と共に男子の解放も行はれねばなりませぬ。今日の男子も婦人と同じく憐れむべき境遇に昏迷して居るではありませぬか。精しくは承知しませぬが、太古の社會に於ては、婦人は男子と同じく極めて自由な健康な生活をして居たとのことであります。是れが知識の眼が開かれると共に、男は女と離れ、權者は無權者と分れ、人は自然と分れ、内我は外我と別れ、階級と壓制と爭鬪と腐敗の波浪に押流されて今日の憐れな有様になつて來ました、斯く事態が明白になつた以上は、何時までも躊躇するには及びますまい。何時までも苦しき境界に屈服するには及びますまい。迷妄の鐵鎖を斷絶して自然が敎ゆる自由平和の生活を實現するのは是れ吾等の使命ではありませぬか、是れ此等の運命ではありませぬか。而して是れ吾等の正義ではありませぬか。科學も無く技術も無く、機械も無かつた太古ですら、幸福な樂しい平和な社會が榮えて居た。近代の人數にして徒らに其科學、技術、機械に誇つても、其『人』の生活にして今日の如く疲勞し腐爛して居るならば、何の光榮がありませう。玉を懷いて罪ありとは、是れ近代人に對する最好の諷刺ではありませぬか。

○

第二、然らば如何なる狀態に解放せらるべきか？何と辯解致しましても、徹底したる共

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

産制が行はれぬ内は、到底充分なる解放は行はれぬと思ひます。此點は男も女もとも〴〵です。共産制が行はれた曉には、戀愛も結婚も自然に自由になりましやう。自由になり、自然的になつたからとて、今日保守論者の想像する樣に亂雜、不貞になる恐れは毛頭無いと思ひます。先輩の方々の御説には、太古自然の社會には、男女の性交は極めて自由であつて、女子は社會の主人公の地位に在つたが、併し、今日の文明社會の婦人の樣に僞善と不貞の結晶體では無つたとの事であります。私は戀愛を自由ならしむる程、性交を神聖ならしむる良方法は無いと思ひます。

又、共産制が行はれたら家庭をドウするかと言ふ方もありますが、別にドウするの、コウするのと言ふ譯には參りませぬ。社會主義者、共産主義者の中には、非家庭論者、家庭破壞論者もあつた樣ですが、家庭といふものは、ソウ容易く破壞されるもので無ければ、又破壞する必要も無いことゝ思ひます。尤も私有財産制が消滅し、金錢結婚、商賣結婚が廢れ、經濟的、利益的、結婚が無くなつた家庭には、眞の愛情といふものより以外に何等の束縛もありませぬ故、今日の貴族、富豪の家庭の如き我慾の堡壘城廓としての其が影を失ふに至るべきは勿論であります。

共産制の實行が婦人解放の最極の鍵であることは、如何なる辨駁がありましても、之を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

疑ふことは出來ませぬ。共産制度の實施せらるゝと同時に、一切の科學的知識と機械力とは萬人平等の福利の爲に應用せられます。從て今日の如き無趣味繁雜多勞なる家庭勞働は極めて簡單平易に且つ清潔に行はれますゆへ、家庭婢僕の必要も無くなり、婦人の生活には時間と體力とに多大の餘裕が生じて參ります。此に於てこそ初めて事實上に婦人の解放も行はれるのであります。若し此第一施設が行はれぬなれば、參政權を得ましても、裁判所や、大學や、其他の官衙が婦人の爲に開放せられましても、此處に入り來るものは矢張り一部權力階級の婦人のみで、一般多數の婦人は依然として其裏外に排斥されねばなりませぬ。そして男子間に階級闘爭が行はれると同様に、婦人間には階級闘爭が行はれる様になります。

○

此の如く婦人解放の最極の門戸が開かれまして、玆に始めて、婦人の爲にも男子の爲にも、極めて美しい新樂園が實現せられるのであります。前に申しました、第一義の自由も玆に始めて事實上の光輝を放つに至りませう。吾人の足が事實上に此境涯に達すべき道筋を實践して進むのでなければ、如何なる高尚な理想も、學説も如何なる有勢な運動も、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

共に是れ一種の蜃氣樓に過ぎませぬ。私は何卒此方針に向つて皆様の驥尾に附したいと念じて居ります。如何なものでしやう?!

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

冷酷なる愛情觀と婦人問題　―岩野泡鳴―

婦人と云はず、男子と云はず、人間が人間として最初にまた最後に要求するものは何でしよう？　稀薄になつた（尤も稀薄でないのは別ですが）藝術家、宗教家、並に哲學家が要求するやうな美――善――眞理でしようか？

世の藝術家等は兎角惰弱に流れ易い。世の宗教家等は兎角儀式に傾き易い。世の哲學者等は兎角理窟に偏し易い。かう云ふ稀薄なもの等からは、僕等は今や殆ど何物をも得られないのであります。

そこで近代の煩悶、苦闘、無解決の生活が初まつた。ところが努力に倦じ勝ちな、そして稀薄の情態にでも安心を得た方がいいと云ふ人間が多いのですから、かう云ふ生活の間からも裏切りして、解決にいそぎ、苦闘を避け、無煩悶に遁れたものが出て來た。けれども、そんなものは、男子なら、去勢せられた、變性者で、婦人なら、生きながら葬むられた人でしよう。

僕等は、然し、眞正の人間として生存するには、無解決の人生、苦闘、煩悶の生活より

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

外にないと思ひます。無論、これは最も緊縮した刹那に於てでなければ得られない生です。然しこの一刹那の生より外は、何等の妥協も、譲歩も、條件もなく、全くの死であります。一歩外せば死であり、虚無である生を維持するものは、稀薄な美でも、善でも、眞理でもない。少し弛めて云つても、そんな美や善や眞理を無區別に燃燒流和させた物でなければならない。それは何です？　力の外はありません。

人間の要求する物は力です。が、それが腕力であつた時代もあります。權力、理解力、若しくは愛情力であつた時代もあります。然し、結局は、僕等が近代生活の渦中から最も適切に自覺して來た肉靈合致の思想から云ふと、最も緊縮した知、情、意一致の心熱に燃え、燒け、流れ、和した腕力その物であります。

これを婦人問題に持つて來て、而も一般的に稀薄にして見れば、婦人がぐづ〱云へばぶんのめしてしまへと云ふに歸します。が、世人が一般稀薄に持つて行つた以上は、世人の習慣に從つて、强弱の關係にも階級を附して、反駁してやれます。

乃ち、最もいい例はスヰテンの神秘家スヰデンボルグの譬喩であります。渠は神秘家であると同時に宗教家であつたから、俗衆に最も歡迎せられる『向上』と云ふ説明し方を採り、その著『コンジユガルラヴ』（夫婦の愛）に於て、左の如きことを擧げた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心靈の發表する愛情若しくは友情は、おのづから刹那的な物だ。(この刹那的と云ふことは、僕等の說にも必要なことですが)愛すると云ふは、同一の眞理を見てゐること。そして兩者の一方が一段うへの眞理に目を轉ずると、他の一方との關係は絕えてしまう。そして前者は別に自分の新たに見る眞理と同一のを見てゐるものと一つになる。が、その一方がまた一段高くなると、他の一方は棄てられてしまう。人の性根、男女の區別は一定不動のものではない。心の狀態に從つて、男ともなるし、また女ともなる。慕はれたのが男子で、慕ふのが婦人だ。心靈的な人間は慕ひ、慕はれながら、乃ち、かたみ代りに男女と變性しながら、向上すると云ふのであります。(スキデンボルグに關しては、僕の著『半獸主義』が詳しい批評を下してあります。)

かう空想的な、分離心靈的な傾向になつては、僕等と到底一致出來ませんが、稀薄な理想に向ふこの『向上』を撤回させて、現下の刹那に理想の必要を絕した『充實』にして御覽なさい。男女は矢張りその刹那、刹那に格鬪してゐるか、格鬪の平均を失へば見棄て合つてゐるか、でありましよう。

或滑稽作家の『アダム日記』に、イヴのことを、初めはなか〳〵面白い相手と思つたが、この頃では、この動物はうるさく、面倒臭くなつたと云ふことがあります。婦人から云つ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ても、さう云ふものでしよう。一般社會の習慣では、ただこれを辛抱して通すのですが、男女のどちらかが個人として覺醒して自我的、もつと平たく云へば利己的になつてゐるのでは、その覺醒してゐない方のおも荷に堪へられますまい。アダムのそれと、近代人のそれとに於ける相違は、ただ意識的でないとあるとの相違です。

それなら男女兩方が覺醒してゐたなら、そんな不安心な、一時的な結婚若しくは愛合を免れられるか、どうか？僕等は決して免れられないと云ふ。不安心と一時的なのとを誤解して卑しんだり、また危ぶんだりする舊人は、男女とも、その一方の服從若しくは盲從を強いたり、甘んじたりするより外に道はないのであります。

が、苟も互ひに個人として覺醒した男女には、服從は或は一時の手段となることがないとは云へませんが、どちらかに多少永續的な服從の弛みがあれば、それは、もう、夫婦若しくは相愛のぶち毀わしです。と云ふのは、兩者の關係がスキデンボルグの所謂夫婦が不平均になつて持續するのと同樣になつて、僕等には主人と奴僕との關係に變じたわけになるからであります。

一般人は男女を主僕の關係で取り扱ひながら、それを夫婦だと云つてゐるのであります。で、この方の問題は、もう、多少、敎育を受けた男女間には分つてゐます。そして今日で

は、分つても、なほそれに滿足してゐるものを舊式の人、分つて不滿足を唱へ出したものを新式の人と云ふやうになつてゐます。

けれども、それだけでは問題は寧ろ消極的に觀察せられたのみです。肝腎なのは、積極的方面であつて、この新式の人がどう云ふ風に生活すべきかと云ふ問題であります。

一家に奴僕の仕するのを耻辱とする男子、また自分が奴僕であるのを肯んじない婦人は、つまり、男女同等を望むのであります。それが參政權の同等であつてもいい。戰爭權の同等であつてもいい。また地位、職業、學力、愛情等の同等であつてもいい。僕等は望めるだけ望んでゐるを要する。と云ふのも、わが國の社會ではまだ早いなど云つてると、世間はいつまでも尙早論で通つて行くからである。

ところで、參政、戰爭、地位、職業、學力等の同等は、個人個人としては今でも望んでゐられるが、社會として望むにはまだそれだけの用意が出來てゐないのも事實だ。これから段々個人的に弘めて行かなければならない。然し即刻にでも望めるのが一つある。乃ち、愛情の同等です。

それもです、僕等は肉靈合致の說、刹那の生命主張を守つてゐるのですから、人間(以外に靈も神もない)を無限とは見ません。從つて、人間の愛情も限りがあります。限りあ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る生の力若しくは愛情には、執着と制限とがありますから、これを放射するには、どうしても打算的になります。五分の愛に對して、十分の情を献げるのは、淫亂でなければ服從の形です。人の一時の熱心に狩られて識らず知らず、服從の形に囚はれてゐることがありますが、そんな氣持ちはその刹那に覺めてしまひます。

同等を望むと云ふことその事が既に打算ですもの——ただその打算が誠實で、全人的であればいいのです。

して見ると、ここに一つ、非常な苦痛と云へば云へることが出來て來ます。事實として、一個人はとても他の個人と同一でない。從つて、自己の行き方が全人的であつても、他の來方が同じ全人的とは云へなくなる。そして自己の誠實は他人に望むことが出來ない。結局、人と人、男性と女性とは、實際に一つになることが出來ない。云ひ換へれば、出來ないことを無理にしようと云ふのであるから、勢ひ、どつちかの征服をしようとする。然らざれば、一層打算のほぞをかためることになる。

つまり男女の關係は接近すればするほど、互ひに誠實を求めれば求めるほど、何か知らん一種の力の格闘であることは、僕の『半獸主義』で既に論じて置いた通りであります。如何に世は進歩しても、如何に人智は開らけ、如何に人の情意が微妙になつても、よい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

〳〵ますます〳〵この格闘を烈しくするばかりです。人の努力が互ひにその人を喰ひ合ふことである如く愛情は戰爭と同樣熱烈になればなるほど、同性間若しくは男女間の『喰ひ合ひ』であることも、僕は申して置きました。

そしてそんな刹那的な愛情は（無論、これ以上結構な愛情は理想的にも、實際的にもありませんが）その場に分離してしまひます。兩個人を同等に見てゐる以上はです。（一方が服從すれば、他の一方に吸收せられてしまひます。）そして分離した、乃ち、互ひに稀薄になつた狀態では、もう、眞の意味に於て、夫婦でも友人でもありません。たださうでないばかりでなく、一たび光を得た闇はその光を失へば一層暗く見える如く、一たび熱心であつた愛情が冷えれば、熱しなかつた時よりも一層の敵意と苦痛とになります。

如何にも熱烈だが、如何にも冷酷なこの愛情觀に僕は、少くとも、堪へてゐます。が、苟も同等を要求する婦人諸君なら、矢張り、この覺悟まで進んで來なければなりません。そして人生は實際にさうなんですから、この愛情論は愛情以外のことにもすべて應用出來るのであります。

僕はこの論文の初めにも力と云ふことを語りました。之を結ぶにも、力と云ふことを云ひます。肉靈合致の力は最後に普通の意味の同等を許しません。そしてこの力は同性同志

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

若しくは異性間の兩立を、どちらかの個人を以て、征服致します。この征服は愛情問題ばかりに限りません。戰爭と政治、國家と宇宙、藝術と科學に流用し、進化論の一角をもぶち破るものであります。そしてこの征服者を獨存の自我と申します。眞正の意味に於ける同等は男子でも、婦人でも、この獨存自我を觀ずるところにあります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

談話の代りに

――阿部次郎――

新しい生命の覺醒はは必ず周圍の野次馬に好個の話柄を與へる。人の噂を生命としてゐる野卑な人達は、必ず此新しい現象を、醜い、滑稽な、淺墓な、堪らない程品の惡い色彩で塗りつぶして了はふとする。此の如き卑しい人達の非難と攻擊と嘲笑と、それから面白半分のませつかへしに堪へて自分自身の途を拓いて行く事は、凡ての新しい覺醒に向つて豫定された運命である。殊に女のする一言一行には車夫や土方と類を等しくするやうな下品極る興味を感じて、之に「男性」そのものを侮辱する樣な茶々を入れなければならないもの丶樣に心得てゐる日本の男子の監視の下に、自分の新しい途を拓いて行かうとする女の人達の仕事が如何ばかり堅實なる覺悟と卒直なる誠意を要するかは今更云ふ迄もないことであらう。新しい生命の生長に向つて最も危險なのは周圍の攻擊でもませつかへしでも何でもない。寧ろ周圍の野卑なるませつかへしに暗示されて、自分の眼にさへ、自分自身の生命が卑しく、醜く、滑稽に見える樣になることである。自分の獨創としては自らの誇りと考へてゐたものが、他人に模倣され、世間の外面的な流行となるに從つて、たまらな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

く醜く感せられることは私共の經驗にもあることである。かうなつて來ると潔癖で性急なものは自分の獨創をも、自分の折角覺醒しかけて來た生命をも、笑ふべく、厭ふ可きものとしてはきための中にすてゝ了ふ。そして私はそんな厭味なものは持つてゐませんよと云ふ樣な顏をしたがる。從つて折角の新生命は其發達の百分一も仕遂げずに芽を枯して了ふことになる。野次馬の厭ふ可く、憎む可く、恐る可きは實に此處にあると思ふ。

近頃の問題になつてゐる「新しい女」もどうやら上に云つた樣なお定りの徑路をとりさうに見えて、危つかしくて仕樣がない。大抵の女の人は私はそんな怪しげな、恐ろしさうな女ぢやございませんよ」と云つてぷんとして了ひさうである。そして折角頭を擡げて來た女性自身の問題、女性自身の新生命をば一も二もなく、滑稽な、危險な、身を保つに不利益なものとして暗から暗に葬つて了ひさうである。併し若しさうなつて了ふなれば、それは明々白々に野次馬の大勝利で「新しい女」の大敗北である。車夫や土方の大勝利で女性の大敗北である。私は敬愛する女性諸君が此の如き醜き敗北に甘んぜられぬ樣に希望する。野次馬の豫定の陷穽に一も二もなくはまつて了ふ樣な智慧のない徑路を踏まれざらむことを希望する。一切を醜化する「噂の種取り」が如何に「新しい女」の輪廓を描くにしても、若し女性の間に起つて來た新しい問題と新しい生命とが眞正に內部的根據を有する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ものなれば兎にも角にも「新しい女」は何等かの形に於いて生れて來なければならない。「噂の種取り」の描いた醜い戯畫をはねつける程、鮮かに生々と自分自身の將來の姿を描くのが何故に惡いのであらう。自らの求める處感ずる處を明かに掲げ出して敢て「新しい女」を以て任ずるのが何故惡いのであらう。それが出來なければ女は本當に意氣地がないのである。本當に世間の思はくと他人の見えとのみに生きてゐるのである。從つて女には「人格」がないと云つた人の言葉が正しいのである。

尤も凡ては新しい問題と新しい生命とのあるなしに懸つてゐる。少し云ふことを憚るが、若し「新しい女」とは酒と煙草とをのんで吉原を見に行かなければならぬものとすれば、從つて新しい女とは外部の行動の變つてゐる處に在つて、內部の問題と生命とに關係がないものならば、新しい女とは實に笑ふべく、憐むべきものにすぎない。眞正の問題は唯內に動く「新しい生命」にある。「新しい生命」さへあれば酒は飮んでも飮まなくても、煙草は吹かしても吹かさなくても、吉原は見に行つても行かなくても、それはどうでもよいのである。新しい生命がなくて變つた行動のみやりたがる「新しい女」があれば、それは笑つて笑つて笑ひ飛ばしてやるがいゝ。嘲つて嘲つて嘲りつくしてやるがいゝ。それは一方からは其人の迷を醒す爲の善智識である。一方からは「女性」特に眞正に「新しい女」そ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のもの丶正當防禦の爲である。

此處に來ると事情は男と女とで違つて來るらしい。獨立の人格がないやうに育てられた又人格のないことを自衛の武器としてゐる「女」といふ存在は、一般的に云つて男よりも暗示に感染し易いものらしい。從つて賢母良妻の暗示にかゝり易い素質は同時に「新しい女」の暗示にもかゝり易い素質を作つてゐるらしい。もし此推測が正しいならば行動の變つてゐることを見えにする外面だけの「新しい女」が續々出て來ないとは斷言が出來ない。そうして自分の本質に矛盾し、自分及び他人を不幸にするのみの結果に了る可き「附燒刄の新しい女」が次第に輩出するやうになるかも知れない。そうして之は男子の場合よりは一層劇しくし而も社會的には自由をゆるされてゐないから空想と性格とにのみからまるものとして——流行するかも知れない。併し之は生命の動搖する時代には凡て免る可らざる副産物である。それは「僞の新しい女」が惡いので本當の「新しい女」が惡いのではない。氣狂に對する暗示を恐れて一切の正氣の人の行動を取締らうとすれば、天下の何者も危險でないものはなからう。「氣狂に刄物」は危いからと云つて庖丁も小刀もかくして了つて、大根を一本まゝで煮たり、林檎の皮をむかずに食つたりすることを天下に布令するとすれば、其人の方がよつぼとどうかしてゐる。惡いのは刄物でなくて氣狂である。氣狂の監視者で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ある。馬鹿な女に對する暗示の危險を恐れて、女性の間に於ける新しい生命と新しい問題とを壓伏しやうとするのは、日本の樣に道學先生と檢閲官とを以てはちきれる樣になつてゐる國ばかりの事であらう。吾々青年が此の如き檢閲官の道德に反抗して自分の道を開拓して行くやうに、女性も亦習慣と男性との壓迫に滿たずして、新しい生活を拓いて行くのは當然至極のことである、略々同樣の重荷に苦む青年として、女性の此間の苦悶に對しては他人事ならぬ同情なきを得ない。

其處で問題は所謂新しい問題と生命との內容如何と云ふことになるが、それは女性自身をして語らせるのが一番いゝと思ふ。男子の中の一人として矢張り可なり不眞面目に女性を取扱つてゐる自分が、女性になり代つて其問題を說明するなどは此場合特に洒落臭いと思ふ。唯現今男女の關係は、單に此點のみに關しても、十二分の問題を女性に提供するに足ることは、公平に事實を見る者が一人も拒み得ないことだと思ふだけである。そして此問題に對する解決が十分に女性自身の本質に回顧してなされむことを希望するのみである。男女同權と云ふ樣な表面だけ景氣のいゝことは其內容を顧れば恐ろしく空虛である。女が男と同じことをすると云ふことは要するに女が男の眞似をすることである。女の生活の間題を解くものは女自身の本質でなければならない――併し今日婦人問題を考へてゐる女性

にこんなことを說くのは云ふだけ野暮なことであらう。

最後に「新しい女」と男の要求との關係を一言したい。一見すけば女の覺醒は男に不利益なことのみのやうである。併し其實は必ずしもさうでない。固より覺醒した女は昔の樣に男に「仕へ」なくなるであらう――「仕へる」と云ふ言葉が我等の母と姉妹とを敎育して來た訓言であることを忘れるな――男は從來の樣に勝手に女を弄ぶことが出來ない樣になるであらう。併し女性の覺醒は今日の男子が堪らない程欲しがつてゐること――共鳴と、獨立せる人格間の純愛との要求――を滿して吳れるに相違ない。我々は今日の女子によつてその孰れをも與へられてゐない。今の女子は唯中空なものがあると同じ樣に、吾々の叫に山彥をかへすのみである。獨立の音を持つてゐるものが、吾々の中にある音と響を合せて共に鳴るといふ樣な魂の躍る經驗をさせてはくれない。だから男の心は如何によく答へる山彥の女を得てさへ常に物足りない。加ふるに現今の夫婦關係の最後の根底になつてゐる恐ろしい觀念――男から養つて貰ふ報償として身と心とを提供するといふ觀念――は今日の男女の關係を實にたまらないものにする。賣買といふ關係の淺ましさに、賣笑婦を對手にするに堪へないやうな男は、全然同じ理由によつて結婚をするにも堪へないであらう、結婚して了へば情が移ると云ふのは買馴染めば情が移ると云ふと等しく堪らない言

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

葉である。自分の加へてやる保護の爲に女から「仕へ」られるのもいやである、利害關係を最後の背景として次第に濃くなつて行く情愛と云ふ樣なものは人間を侮辱するものと思ふ。若し「新しい女」が此等の點に於いて覺醒して吳れたら、男は從來女から女に移り移つてさへ、嘗て求め得なかつたものが與へられるやうになるかも知れない。そして男子の女性に對する態度そのものを、もつと眞面目に純粹に高貴にすることが出來るかも知れない、そうすれば吾々が女性に對して心窃かに抱いてゐた「すまない」と云ふ感じも自ら救濟される樣になるであらう、自分は決して女性の覺醒を恐れない。そして今よりももつと手答へのある、生きた女を與へられることを樂みにしてゐる。（十二月十九日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛と結婚（つゞき）――エレン・ケイ――

一、性的倫理發達の過程

歐羅巴人の宗教や法律によつて支持されてゐた性的關係の道德理想は現代に於て根本的變化を受けつゝあることは思慮ある人の等しく認める處である。

他のあらゆる斯の如き改革と同樣に、この改革も社會の指導者等の疑惑によつて反對される。この疑惑たるや元來人間は自己の向上的發展を自から指導するの能力を缺くといふ見解に基いてゐる。是等の批評家に從へばこの指導といふことは現實の中に超越理性を示現し、かくて現實的なものを合理的なものとなす處の働きである。現存の結婚は歷史的に發生せる現實なるが故に又合理的なものである。宗教的並びに倫理的要求と共に結婚の今日まで歷史的に經續したといふことは社會存立の缺くべからざる一要件として現時の結婚制度をもまた永久に傳へるに相違ない。

ところが改革者達は或方面に於て超越理性を等閑に附してゐる。併し彼等も亦或一定の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

社會學的若しくは心理學的狀態に於て、現實なものが或特殊の方面に於ける人性の要求に最も良く適應する限りは現實的なものは又合理的なものだといふ範圍內で兩者の關係を承認する。彼等は確定せる法律や習慣の必要を承認する、何故なら是等のものゝみよく感情を熾烈にし、以て活動に移るに十分の强さある衝動の根元たらしめるから。彼等は又保守頑迷の感情が肉體に於ける骨骼と同等の重要なる意義を靈魂に對し有することを認める。

併し他の方面に於て、人類は自から如何ともすべからざる運命を待ち、其の前にみづからを投げ出すものだといふ主張に從へば、謂ふところの歷史的要求なるものは是等の改革者達にとつては虛妄なことである。元來歷史的要求とは如何なる時代に於ても數又は質に於ける最强者の實現せられたる意志で、しかも自然と歷史が彼等の勢力の運用を助くる程度に從つて實現したものである。改革者達は歐羅巴の結婚制度が一部は人種保全に關する永久的な物理的心理學原因(Physico-Psychological)に、一部は諸外國に於けると同樣、この國に於ても其効果はなほ繼續するとはいへ、一時的な歷史的原因に起因することを知つてゐる。彼等は社會のあらゆる制度中、結婚が何よりも復雜、美妙、意義深きものだといふことを知つてゐる、それ故に彼等は又幾千年となく繼續し來つたこの神聖な殿堂が破壞された場合、多數人が恐怖に蔽はれるのはさもあるべきことだと理解する。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

併し彼等はまた一切の生命あるものは變化を受けるといふことを、又各變化の中には曾て活動せる現實の死滅と、新しき現實の形成とを含むといふことを知つてゐる、彼等はこの滅び行くものと、それに代るべく生れ來るものとがいつも不揃だといふことを、又世の識者達には既に妨害となる法律や習慣も多數人にとつてはまだ利益があり、從つて彼等が同じ狀態にある間は存在を繼續せねばならぬといふことを知つてゐる。併し彼等は同時にかの要求及勢力の最も高尙なる少數の識者によつて生活のより高き標準がいつかは又多數人のものとなることをも知つてゐる。總て發展の狀態とは現在に滿足せず、いかにせばあらゆる事がよりよくなされるかを、又思想及行動に於てこの問題に對する正當の答を見出すべき好運を開き得るかを硏究するの勇氣を有することである。

斯くして最も敎養ある階級の人達の性的要求と彼等に正當な滿足を與へる形式との間に存する矛盾に對する不滿足が、今や、彼等自身の祖父母をなほ滿足させ、現今でさへ彼等と同時代の無數の人々を滿足させてゐる結婚制度を攻擊し始めさせた。是等の人達とても、この不滿足が現に結婚を支持してゐる心理的、若しくは社會的狀態の存續する限りは結婚を破壞しはしないといふことを十分よく承知してゐる。併しそれと同時に彼等の意志が、除々に是等の心理的又は社會的狀態を變化すべく運命づけられてゐることをも知つてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しかも彼等は既に精神界の一半面に於て其期の到來を豫示する前兆や奇蹟を見た。

改革者達は人種保全の自然的狀態と分離すべからざる關係を有する矛盾、撞着は如何なる法律を以てするも去除し得るものとは信じない。彼等は完全の自主とは只發展の極致とのみ一致する理想だといふことを理解するが故に、彼等は又新形式が屢々自由の未だ知られざりし擴張と共に制限をも傳へることを知つてゐる。

彼等の欲求するところのものは行動の自由を制限するにせよ、擴張するにせよ、個人又は人種の爲に性的能力によつて生命の增大を助長せしむるが如き形式それである。彼等は一般人類が新形式を受け容れられる程進歩してゐることを期待するより外、それ以上の完全なる狀態をこの新形式の上に望まない。併し彼等は新形式が遂には多數人にも亦必要なものとなるやうに運命づけられてゐるより高い要求を養ひ、より豐富なる能力を奮起せしめることを望んでゐる。この希望は彼等の豫想せる努力に點火したもので、その豫想せる努力たるや、個人的戀愛がその人の戀愛の創造せる新生命に對しては間接なるが如くその人自身に對しては直接に人生の最高價値であるといふところの確信によつて指導されてゐる。しかもこの確信は日に日に全世界に普及してゐる。

人は進化を指導する超人的理性を信ずるにあらざれば、恰も有機體の力が器官の力を超

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

越する如く、個々の人々の力を超越せる原動力なる人性に内在する理性を信せざるを得ない。この理性は人類の一致が確立されるに從つて增進する。各國民が其隣人の感化を防ぎ、各自の特性を守護することは益々困難なことになつてくる、そして今やこのことが性的問題に關して特に明白になりて來た。スカンデイナビアやアングロサキソンの性的倫理思想はラテン人種の文學中に散見すると同時に、ラテン人の戀愛觀はスカンデイナビアに於て「新不道德」と稱せられる思想の形成を助けた。

斯の如く種々なる國民の法律と習慣とが作り上げた強き徑を横ぎつて、現代意識の細い、多彩な緯を曳きつつ、國から國へと黃金の梭や鋼の梭が飛び交つてゐる。この結果の一つは此機が織り出してゐる新しい型の繪で、今一つはこの型の中に或新しい動機を込りむことである。(未完)

らいてう譯

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□寄贈雜誌

□早稻田文學　□白樺　□新潮　□スバル
□聖盃　□帝國文學　□中央公論　□南方の花
□現代の洋畫　□ヒユーザン　□心の花　□黑耀
□朱欒　□モザイク　□三田文學　□黑猫
□抒情詩　□雄辯　□きたろら　□詩歌
□ホトトギス　□奇蹟　□藝文　□歌舞伎
□層雲　□天眞　□智仁勇　□みづゑ
□シャルル　□樹蔭　□女子文壇　□近代思潮
□相對　□殖民地より　□とりで

月刊「相對」本鄕區駒込林町二三〇相對社發行

今度かう云ふ雜誌を紹介致します。小さい雜誌ですが極めて眞面目なものでかう云ふ種類の雜誌は他にないさうです。本誌は小倉淸三郎氏が單獨でおやりになつて居ります。材料も非常に澤山集めてあるさうです。私共はかう云ふ眞面目な小雜誌の一つ生れる方が下だらない文藝雜誌の十も生れるよりはたのもしく思ひます。

内　容

主たる問題　性的經驗と對人信仰
春的經驗　春的氣分　春的性感
馬鹿に伴ふ腥覺時の遺精の一例
人にも祈る
幸運不運
若きニユートンの幸運
山の上の出來事。（想像）

内容を少しばかり此處に寫して見やうと思ひます。

主たる問題

私が此の研究錄に於て取り扱ひ度いと思つてゐる主たる問題が二つある。第一は性的經驗で、ある。第二は對人信仰である。

經驗　性的經驗

私が此處に經驗と云ふのは、內省に依つて觀察せられ得る一切の事柄を指して云ふのである。例へば感覺、氣分、快、不快、情、慾亢奮などは何れも私の云ふ經驗である。經驗の中に就て直接間接に異性に關聯した經驗を特に性的經驗と呼ぶのである。

信仰　對神信仰と對人信仰

私は以前神に對してのみ經驗してゐた特殊の心持を後には人に對しても亦た明かに經驗するやうになつて來た。私は此の特殊の心持を信仰と呼むでゐる。而して神に對する信仰をば對神信仰と呼び人に對する信仰をば對人信仰と呼むでゐる。

對神信仰は神に就いて若干の思想に伴つて經驗せられたのであつた。對人信仰もまた人に就いて若干の思想に伴つて經驗せられ始めたのである。故に信仰を研究するには其れに關聯した若干の思想をも併せて研究せればならぬ。然し信仰其れ自身は思想でない。（以下略）

—野枝—

情熱の女　長曾我部菊子著　岡村書店發行
京　都　井田絃聲著　木兎社發行
淪落の女　松崎天民著　春江堂發行
大下藤次郎遺作集　春鳥會發行

去る四十四年十月四十二歲にて逝ける水彩畫家大下藤次郎氏の遺作品を集めたもので、原色版二葉、他の四十九葉は寫眞コロタイプ版になつてゐる。卷頭に故人の年譜と肖像、卷尾に製作年代、面の大さ、寫生の場所、所藏者等を記入した遺作目錄が附けてある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近代劇協會

第二回興行

帝國劇場第卅七回興行

大正二年三月廿八日(金)廿九日(土)三十日(日)

毎夜午後六時開演 ■■■■■

獨逸文豪 ギヨオテ作

文學博士 森林太郎譯 伊庭孝監督

ギヨオテ劇の隨一
獨逸の國寶的文學

ファウスト 五幕十四場

登場男優 淺井松彥。伊庭孝。上山草人。

登場女優 葉山。椿。衣川孔雀。玉村歌路。山川浦路。原蕨。

帝劇歌劇部男女優 貳拾餘名出演

入場料 特等 金貳圓。壹等 壹圓五拾錢。貳等壹圓。
參等 七拾錢。四等 貳拾五錢。

協會顧問 文學博士 坪内雄藏
文學博士 森林太郎

協會代表者 上山草人

事務所 芝區日蔭町一丁目二番地 近代劇協會
電話芝三四〇五

鐘淵紡績株式會社
五拾貳回決算報告

貸借對照表（省略）

損益計算

一總收入金	参〇、参〇五、八六参●貳五六
一總支出金	貳八、貳八貳、壹七貳●九参七
差引	貳、〇貳参、六九〇●参壹九
内	
固定資產償却金	参〇〇、〇〇〇●〇〇〇
再差引	
當期純益金	壹、七貳参、六九〇●参壹九
前半期繰越金	九貳貳、五八参●貳四貳
計	貳、六四六、貳七参●五六壹
内　株主配當金	七五八、七七七●四〇〇
但年壹割貳歩（舊株一株に付金一円三十銭 新株一株に付金四十八銭）の割	
當期特別配當金	貳五貳、九貳五●八〇〇
但年四歩（舊株一株に付金壹円 新株一株に付金十六銭）の割	
諸種積立金	壹五〇、〇〇〇●〇〇〇
使用人退職慰藉病傷給資老救設金	壹〇〇、〇〇〇●〇〇〇
職工幸福增進資金	壹〇〇、〇〇〇●〇〇〇
役員賞與金	八〇、〇〇〇●〇〇〇
後期繰越金	壹、貳〇四、五七〇●参六壹

右報告候也

大正二年一月

東京府南葛飾郡隅田村

鐘淵紡績株式會社

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

長曾我部菊子著

竹久夢二氏口繪
小寺白衣子裝幀

情熱の女（じやうねつのをんな）

菊半裁
洋裝美本

三百六十頁
價五十錢
送費六錢

好評忽ち再版發賣

本書に現れたる女性は、周圍の人々を熱愛する爲に生れて來たもの丶様である。弱いのが女の代表である時代はもう過ぎ去つたが、現代の理智の冷たい女の心にくらべて此の女性の強い感情を味はうのは面白いに相違ない。

東京淺草
下平右衛門町

岡村書店

振替東京
一九〇六五番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

―内容―

歌八章

銀笛哀慕調
初夏晩春
薄明の時
雨のあさき
秋思五章
春を待つ間
白き露臺
哀傷篇

散文六編

桐の花とカステラ
晝の思
白猫
植物園小品
感覺の小函
ふさぎの蟲

數少きわが歌の中より選びて僅に四百餘首を得たり。わが歌はかの銀笛哀慕調のいにしへより哀傷篇四章の近什にいたるまで、凡て果敢なき折ふしのありのすさびなれども、今に及びては舊歡なかなかに忘れがたし、ただ輯めて懷かしく、顧みて哀愁さらに深し。

處々に挿みたる小品六篇のうち「桐の花とカステラ」「晝の思」の二評論は時折のわが歌に於ける哀れなる心ばえのほどを述べたれども、そはわがいまのつきつめたる心には協はず、ただ詩のみ、餘情のみ、うはかはのただひとふれのみ。わが世は凡て汚されたり、わが夢はすべて滅びんとす。わが若き日も哀樂も、遂には皐月の薄紫の桐の花の如くにや消えはつべき。

わがかなしみを知る人にわれはただわが温情のかぎりを投げかけむかな。囚人 TONKA JOHN は既に傷つきたる心の旅びとなり。

この集世に出づる日ありとも何にかせむ。慰めがたき巡禮のそのゆく道のはるけさよ。この心を誰か悲しく弄ばむやんごともなしやむごともなし。

一九一二、初冬

著者

北原白秋氏著及畫

桐の花

抒情歌集

再版發賣

本文朱黒二度刷……歌四百余首及歌論

挿畫欄畫數十種……裝幀澁茶と白の瀟洒

定價金壹圓……送料金八錢

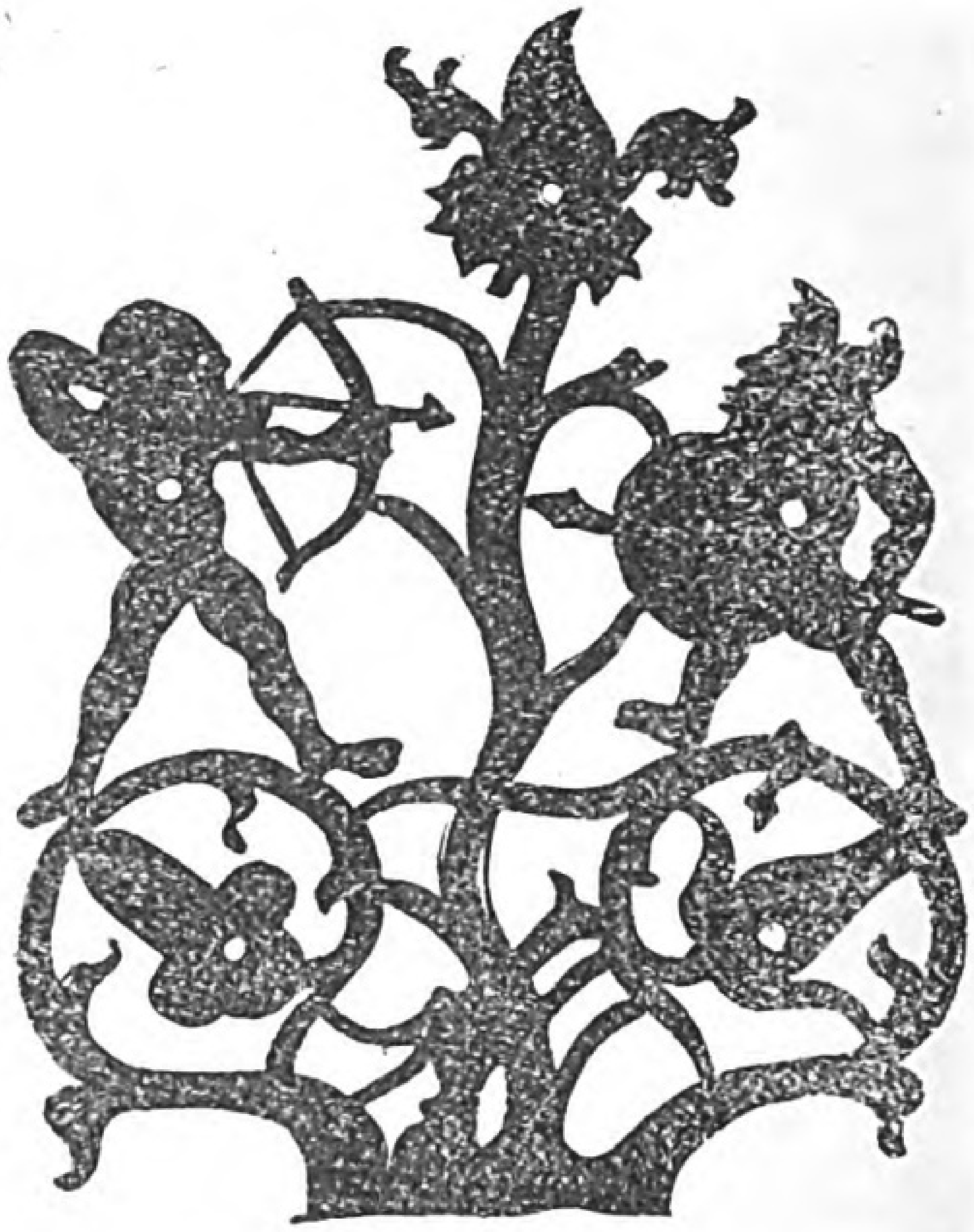
發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

石井柏亭氏著

歐洲美術遍路

上下二卷



■外遊二年間足跡殆ど歐洲各國に及びたる柏亭氏の紀行評論等の全部を收む

■四六版裝釘瀟洒

■泰西新古美術品の寫眞數十葉と著者自身が各地の寫生畫數十葉とを挿みて內容頗豐富

三月上旬上卷發刊

定價各卷貳圓

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目 振替貯金東京五六一四 東雲堂

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

The Pilgrimage.

By Yone Noguchi.

新英詩集

「東海より」以來過去十年前の英詩を聚む。二年前、此集英米詩壇に顯はるゝや好評嘖々、時の批評家著者を比するにバエレーン或は畫家ウヰスラーを以せり。ランソム氏が野口氏を評論せる一大論文（セ、フオートナイトリー、レヴユウ）は詩集の卷末に掲げらる。

二月中旬出版
定價金一圓
送費金六錢

◎今日より顧れば、詩のやうな夢のやうな時代は一度は、此のせゝこましい日本にもあつた。日本は當時に於て、十分の意義に於ての世界の日本では無かつたかも知れぬ。然れど世界は日本に對して、今日よりも平和であつた。「ヨネノグチ」は此の時代に、詩を胸に懷いて米國に渡つたのである。若し彼にして米國に渡ること、十年遲かつたならば、彼が胸中の詩は果して世に出づる機會を得たであらう乎。彼は、此の點に於て、全く特殊の地位を占めて居る。

◎西洋人は、野口の詩に於ける及び文に於ける想像力の豐富を見て、野口の日本人である點よりして、日本人の富贍なる想像と稱して居るが、日本人は決して西洋人の輕易に想像するが如き、想像の富贍なる人民で無い。日本人の想像力は思ひ切つて貧弱である。日本に大なる文學無く、大なる哲學無く、大なる事業が無かつたのは、其の根本の理由は、實に此の想像力の貧弱に在るのだが、此の點に於ては野口は眞に一の天才である。彼れの文は詩趣に漲うて居る。或は彼れの詩は想像の翼に依つて蝶の如く舞うて居る。彼は其の詩趣饒き文詩を以て、毎月或は毎週、英米の文壇を賑はして居るが、紙と木とのマッチの函のやうな日本の家に棲み、風呂敷を細工したるが如き日本の衣を着け、米を食ひ、茶を啜り、或は團扇を使ひ、或は火鉢を擁して日本語を話し、日本語を讀みながら、ペンを横に走らして出來上がつた原稿を、海は太平洋を超えて亞米利加に、陸は西比利亞を經て英國に送る處、彼も亦日本には產れそこねた人間の一人である。（東京魁新聞　若宮卯之助）

新刊
英文
鎌倉
二月中旬出版
定價金八拾五錢
送費六錢

發行所
東京市京橋區南傳馬町三丁目
振替貯金東京五六一四番
東雲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜叢書刊行

岡本かの著　和田英作畫
■歌集　かろきねたみ　歌双紙第一篇
定價金二十五錢　郵税金二錢

二十氏執筆　小笠原貞裝幀
■青鞜小說集　近刊

青鞜同人譯　尾竹紅吉裝幀
■ポオ散文詩集　近刊

らいてう著　尾竹紅吉裝幀
■圓窓より　近刊

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　(振替貯金東京五六一四)　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

岡本かの子著

（青鞜叢書のうち）

新刊發賣

小形美本
全部日本紙
木版手刷
挿畫一葉
定價貳拾五錢
送費二錢

挿畫 和田英作氏
裝幀及裏畫 岡本一平氏
彫刻者 吉田悦太郎氏

この歌双紙は年四回刊行する全部本版刷の、純日本式裝幀に成る歌集で、本篇は女史の新作七十首を收めてある。「女なればか」「かろきねたみ」「袷の襟」「暗の手ざわり」「舊作のうちより」「いばらの芽」「むなおしろい」「淡黄の糸」「ひるの湯の底」「水のこゝろ」の十章。かろくやさしく、なつかしき女史の氣持ちは、頃合ひの年數を經た櫻の板につゝましく彫られて、稍々にじみ勝に刷り出された薄墨の色に、その情緒の顫へを窺ふことが出來る。

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替東京五六一四番） 東雲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

原稿用紙

■大判（藍色刷）二十字十行百枚綴

■大判（褐色の色紙へ墨刷）同上

■小判（朱色刷）同上

定價各一册十五錢　送費一册四錢

右三種紙質は最も精良なるものを撰み發賣いたし候間御愛用願上候

發賣所

東京市京橋區京橋際

東雲堂書店

電話京橋一六三九

振替東京五六一四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

江戸狹斜文學の粹

饗庭篁村翁序　久保田米齊氏畫
田村西男氏序　熊谷爲蝶新譯

新譯 梅ごよみ

最新刊
四六判三百頁
江戸好製本
定價金五十錢
送費六錢

附錄　爲永春水小傳■篇中の主要人物■羽織藝者の氣分

爲永春水が一代の名作、德川期狹斜文學の粹として當時滿都の士女を狂奔せしめたる「梅ごよみ」も、風を紊るものとして後代に及び不幸發賣頒布禁止の厄に逢ひ、永く地中のものとして終らんとす、著者これを嘆き、忌避に觸るゝ個所を削除して、人情の機微、情緒の纏綿を傳へんとす、軟文學の精隨、艶麗花の如き情史の俤は玆に再び春淺き如月の市上に現はれ出づ。これ東都春信の第一!

□よね八、仇吉、丹次郎の艶史新譯成る!!!

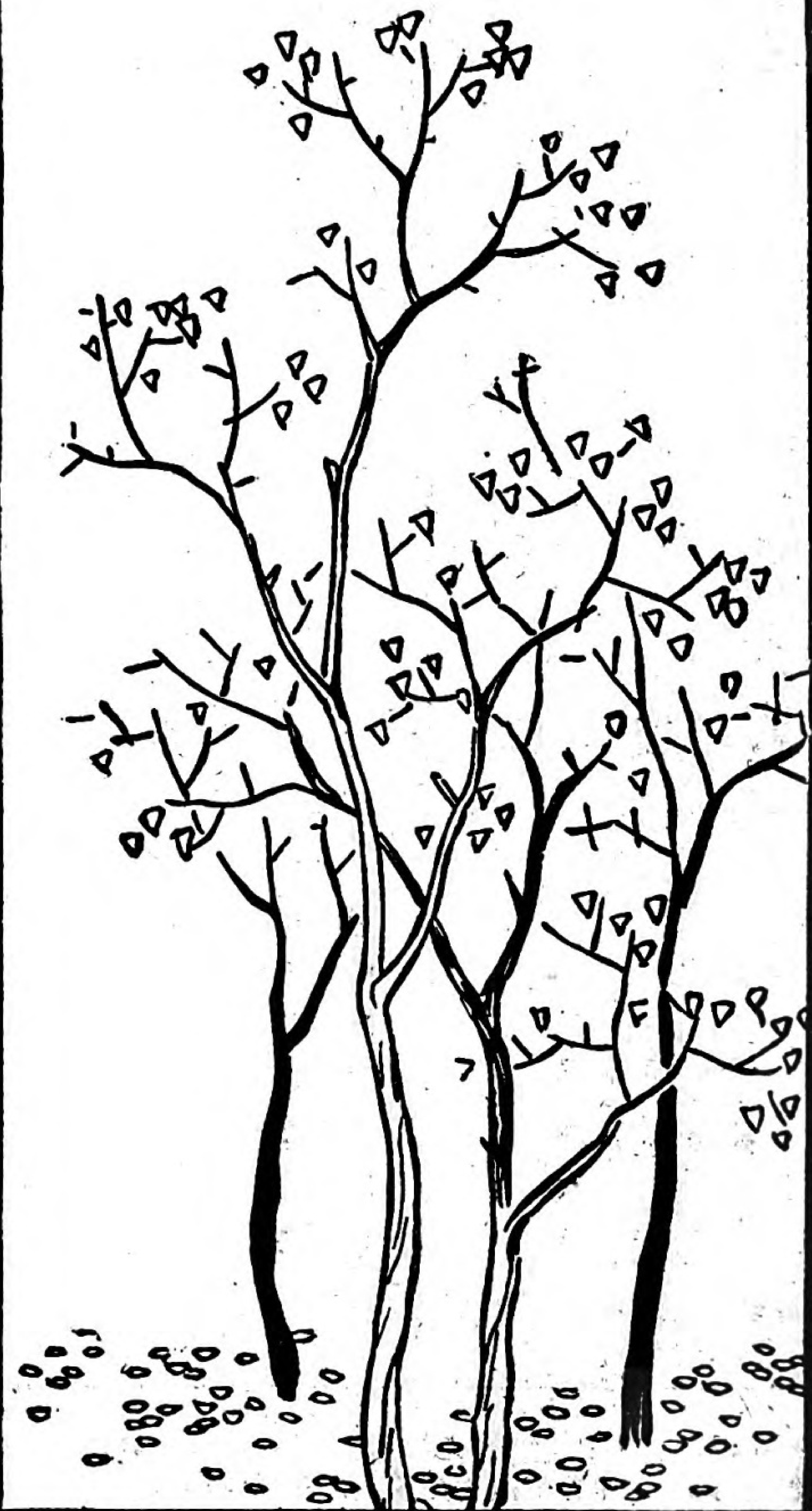
發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　振替貯金東京五六一四　東雲堂

歌集

死か藝術か

再版發賣

東京
京橋際
東雲堂



若山牧水氏著

內容

手術刀
落葉と自殺
かなしき岬

裝幀

四六判總クロース美本
定價金七十錢
送費金八錢

吉井勇著

水莊記

山脇信德畫
齋藤與里畫

内容

■ 水莊記
■ 苦痛の谷
■ 山上哀話
戯曲「無智の序」
湘南秘事
七尺牘
海郷異志

新刊發賣

奇しく凄艶なる七篇の物語を收む。

菊版類美本
本文黒青二度刷
挿畫二葉
定價壹圓
郵税八錢

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替貯金東京五六一四番） 東雲堂

發行所　東京市京橋區南傳馬町
振替東京五六二四　東雲堂

求むるこころに手をのべよ。遠く行け。靜にうたへ。落ちたる塀に纏はる蔦は、悲しけれども力あふるゝものなり。煙や水や山岳や月光や、香氣ある太陽や、これら皆無言にして心を養ふものなり。この詩集の如き僅に著者が心に培かひたる蔦の芽生に過ぎず。

四六判頗美本
定價金壹圓
郵稅六錢

阪本繁二郎畫

三木露風著

詩集

白き手の獵人

三月上旬發賣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自由劇場主事

文學士 小山内薫氏著（新刊發賣）

演劇論集

演劇新聲

四六判洋裝
挿畫十葉
定價金八拾錢
送費八錢

■藝術か娯樂か
■再び「藝術か娯樂か」
■演劇の新使命
■劇評の價値
■ウオオクレエの「劇評論」
■俳優の俳優論
■内的寫實主義の一女優
■丁抹のイプセン女優
■俳優グランヰル・バアカアに就て
■オスカア・ワイルドの諸作
■ゴオドン・クレエグの第二對話
■新劇小觀（五編）
■四十一年の劇評（十二編）
■英吉利の旅役者
■「ゼ、チヨコレエト、ソオルヂヤア」を見て

著者今や演劇研究のため西遊の途にあり。本書は著者が日本に發したる最近の研究を集めたる書にして、劇論、劇評、舞臺裝置に關する新らしき研究、泰西劇壇の新潮等を紹介せり。好劇家も讀むべし、俳優も讀むべし、興行主も讀むべし。敢て新劇壇に薦む。

■演劇に關する新智識を網羅せるは

■本書也、新興劇壇に與ふる羅針盤！

發行所 東京市京橋區南傳馬町三丁目 振替貯金東京五六一四 東雲堂

"ZAMBOA"

月刊純文藝雜誌
北原白秋氏主幹

朱欒
ザムボア

定價一冊廿五錢
送費金二錢

匂高き朱欒の實はその肌キメ細かにしてつやゝかに、その手觸また冷たくして、新らしき香ひ油のごとし。かの綠を帶びしオレンヂ色のなつかしさはわが南方の夕日よりも光強く、淡紫の風味はかの紀州の蜜柑よりさらに床しく鮮かなり。葡萄牙語のZamboa長崎訛のザボン、四國のジャボ、みな一にしてその匂のフレッシュにして好もしきはわれらが近代の藝術と等しく、悲みまた相似たり。見よ、その實の熟れ輝くところ、黑猫は長き尾を曳きて「時」のごとくに過ぎゆき、海見ゆる庭園の食卓にはすでに晝間の紅茶濺れり。フオク取り、ナイフ取り、薄玻璃にリキユルの色をながめ、アスパロガスに白きソースのかなしみを味ひ知るわれらかIntimeなるDinerのまとゐに、かの品よく、髮わけて佛蘭西の流行なつかしく何時もかゝる日の小獸など口ずさみつゝあえかにも訪づれ來るは誰ぞや。

二月號執筆者

蒲原有明氏　茅野蕭々氏
木下杢太郎氏　水島爾保布氏
長田秀雄氏　増野三良氏
三木露風氏　三上白夜氏
石井柏亭氏　松村牧雄氏
秋田雨雀氏　西村陽吉氏
仲田勝之助氏　北原白秋氏

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目（振替東京五六一四番）　東雲堂

■北國詩は北國の詩歌を樹立せんとするもの也

北國詩

二月號

■發生以前の藝術(評論)……新妻莞
■羽後を思ふ(歌)……前田夕暮
■泥醉歌(詩)……山村暮鳥
■女と猫(詩)……ヴエルレーヌ
■葬式まで(散文)……關谷逍山
■廢園(詩)……帶屋久太郎
■梅にふる雪(歌)……三浦薔薇
■枕の冷え(歌)……遠藤桂風
■くさぐさの絹切(歌)……廣瀬芳子
■小さき夢(歌)……水木京之助
■瓦斯の灯(歌)……佐々木木風
■めぐる足音(歌)……大山順造
■痴者の嘆き(歌)……佐々木順

■定價一冊貳拾錢●年四回刊行●一年分社費八拾錢■

■早春の雪中に青き芽を出せるもの本誌也

發行所 羽後沼館町 北國詩社・發賣 東京市南傳馬町 東雲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■水彩畫を描く人は勿論愛好せらるゝ諸士は座右に本書を欠く可らず

月刊美術雜誌

みづゑ

第九十六

二月三日發兌

送料共金廿五錢

■みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫研究専門雜誌なり

森鷗外氏年譜、赤城泰野氏裝釘、箱入美本

大下藤次郎遺作集

最新刊

原色版、コロタイプ版、五十葉、特價一圓五十錢

本邦水彩畫三大家の一人大下藤次郎氏遺作中優秀なるものを集めたり、卷末に各繪畫につき精細なる説明を附したれば絶好なる紀念品たるのみならず欠くべからざる參考品たりと信ず

特價一圓十錢（送料共）但し直接本會へ申込みの方に限る

發行所　東京小石川關口駒井町三　振替口座東京六九六三番　春鳥會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■モザイク■

第貳年貳月號內容

行者の自白（小說）……水島爾保布
藝術の批評に就て（評論）……ウォルター・ペータア
白晝の目擊（小說）……五十嵐禎夫
維也詩集（譯詩）……川路柳虹
雀鷹（戲曲）……武林無想庵
ゼームスの人生觀（評論）……太田義男
醜い求婚者（小說）……野上臼川
死んで行く地へ（小說）……藤井伯民
醉漢の心臟（小說）……西田長左衛門
新年の文壇（批評）……モザイク同人
表紙及裏繪……藤井達吉

定價郵稅共金參拾錢　六冊金壹圓七拾錢

東京市下谷區　モザイク社　中根岸六九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回一日發行
一冊二十五錢
郵税一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

第百五十二號（二月一日發行）

前金郵税共
六冊壹圓五十錢
十二冊貳圓八拾錢

戯曲「ギヨッツ」（ギヨオテ）……森鷗外譯
日本音樂の味ひ……大塚梧桐
戯作偶感……佐藤惣之助
戯曲新論……林鷗南
舊劇保存の議に就て……岡本綺堂
博多に於ける自由劇場……竹柴秀一
アルト、ハイデルベルヒについて……松居松葉
「アルト、ハイデルベルグ」に就て……小野秀雄
小笠原騒動の脚本……長谷川良三
一月の脚本界……花びし生
「十二夜」舞臺面に添へて……在英 坪内士行
寒かつた初春の東京座……山の手の女
「武田信玄」の作意……岡本綺堂
屑屋の書いた小説……伊原青々園
「生玉心中」に就て……井出蕉雨
「生玉心中」と「め組の喧嘩」の鳴物……杵屋勝四郎
大正新春の大小劇場（青々園、春浦）
活動寫眞化せるカルデロンの作……旭光
「御牛」と「生玉心中」……關根默庵
各地の春狂言……すの字
附録脚本 史劇「上總介信長」……都城恒元

東京本郷切通坂町書報社内
歌舞伎發行所
電話下谷二四八三番
振替口座一八一〇六番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心の花

第十七卷 二月號 第二號

復讐（小説）……吳野潮音
動物性（同）……岡部千代子
花（シユニツツレル）……出野青煙
岡重左（モリエール）……草野柴二
森の呟くところ……竹友藻風
萬葉集講義……佐々木信綱
土佐の古き萬葉集……伊藤乘興
ゼネバ湖畔より……チエムバアレン
我が生は……沼波瓊音
物足らぬ思ひ……橘糸重子
棒ちぎれ……平田松堂
老せぬ瞳……八木善文
逆捲く波……石榑千亦

●定價一部二十錢 ● 半ケ年一圓 ● 一ケ年二圓 ● 税共●

東京日本橋區 竹柏會出版部 本石町一ノ一

振替東京四三〇〇番

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

復活號

シバヰ

一月一日發行

毎月一回一日發行

定價金廿五錢

マックス、ラインハルト　島村民藏
ハロゲエトにて　坪内士行
新愛蘭劇のこと　市川又彦
劇壇斷片語　本間久雄
第一の對話　中谷德太郎
手紙　楠山正雄

葉書だより
先代左團次　抱月生
帝劇見物記　えうじ
二長町から歸つて　虎太郎
翠扇姉妹に　下町二人娘
長谷川時雨

▲ラインハルトの意匠舞臺面……（四種）
▲女優ゲルトルウト、アイソルト……（肖像）
▲表紙意匠……今村紫紅

東京市京橋區新佃西町三ノ五
シバヰ發行所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第三年
第二號

詩歌

定價二十五錢
送費一錢五厘

二月號內容

□僧の娘（詩）……三木露風
□長壽花（詩）……川路柳虹
□何處（歌）……土岐哀果
□幽鬱の小鳥（譯詩）……小林愛雄
□自殺者の歌（詩）……加藤介春
□BEAUTY（詩）……山村暮鳥
□譯詩二篇（詩）……內藤濯
□十二月の朝（詩）……佐藤綠葉
□神話（譯詩）……尾瀨哀歌
□烟草（詩）……水野葉舟

□短歌
田村飛鳥　山田邦子　奧村博
小野深雪　熊谷武雄　荻原楓花
寺井毅　瀧澤謙　楠田敏郎

□夜會（戲曲）……佐々木繁
□孤獨者の机邊（散文詩）……福永挽歌
□酒のなか（歌）……細谷明
□落葉（歌）……金子不泣
□末日悲歌（對話）……新妻莞
□黑き僧（歌）……新妻莞
□春來る空（歌）……狹山信乃
□落葉林より（感想）……前田夕暮
□沈默その二（歌）……前田夕暮
□詩六篇（詩）……前田夕暮

發賣所　東京神田表神保町　東京堂

社友募集

白日社濟規往復葉書にて申込まれたし。

發行所　東京市外西大久保　白日社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第五年 第二號

スバル

定價參拾錢
郵税二錢

ヘルゲランドの海賊（戯曲）……萬造寺齊譯
幼い子……江馬修
死の勝利 ダンタンチオ作……石川戯庵譯
馬丁（小説）……森鷗外譯
拍子木の音（小説）……尾島菊子
愛らしい神様の話（小説）……久保正夫譯
わが手（歌）……原阿佐緒
心づくし（歌）……阿部省三
旅のあはれ（歌）……堀口大學
壁の香（歌）……鈴木北溪
この日ごろ（歌）……柏木松雄
續水莊記（評論）……佐々木好母
椋鳥通信……無名氏
死顔（詩）……長田秀雄
紹介……
消息……

東京神田區北神保町二 昴發行所 電話本局四二六四番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第六卷 第二號

アララギ

本號特價 二十錢

特別號

○冬の日光と枯草（詩）……木下杢太郎
○狂人の遊歩（詩）……木下杢太郎
○秋の紺糸（詩）……木下杢太郎
○みづうみの島（詩）……山宮允
○秋の一日（短歌）……左千夫
○獨都より（短歌）……石原純
○短歌雜論（十一）……茂吉
○一月の短歌論壇……茂吉
○一月の短歌壇……茂吉

□叫びと話（歌論）……伊藤左千夫
□繪畫雜論……木下杢太郎
□現代五歌人評……古泉千樫
□ヒステリーの語義……齋藤玉男
□『新月』評……茂吉、千樫
□古泉千樫、中村憲吉評……（伊藤左千夫 長塚節）
□善惡の彼岸……林道倫
□山家集私鈔……齋藤茂吉

短歌

柿乃村人　故稚子　松島梧風
古泉千樫　湯本禿山　清水里穗
土屋文明　柳本城西　加藤雪腸
中村憲吉　山宮允　土田耕平
岡千里　齋藤茂吉　中原しづ

□アララギ歌壇……アララギ同人

○定價一册十八錢○六册壹圓○拾貳册貳圓

注文は東京本所綠町三丁目十三古泉幾太郎宛
投稿は東京青山南町五丁目八十一齋藤茂吉宛

東京根岸短歌會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一日發行
毎月一回

フューザン
第三號
〔二月號〕

郵税一錢五厘
一部二十五錢

■實物見本(舊刊)一部十五錢■

■本號發行日二月五日■

挿畫

靜物(色刷)……ポール・セザンヌ
ホアの女(寫眞版)……仝
風景(仝)……仝
靜物(仝)……仝
風景(仝)……仝
自畫像(仝)……仝
風景(木版)……眞田久吉
築地(仝)……木村莊八
居留地(仝)……岸田劉生
表紙(清宮彬)・扉繪(萬鐵五郎)・裏繪ノフレの女

目次

「詩」……岸田劉生
てがみ……三並花弟
野蠻性(感想)……眞田久吉
湖(對話)……松村巽
感想……高村光太郎
色々な話……齋藤與里
感想……岸田劉生
私信(凉花君に)……仝
私信(劉生君に)……川上凉花
セザンヌを畏敬す……木村莊八
――フイエル・グレーフエ、テオドル・デユレ、ゲエムス・ハネカー――

發行所　東京市牛込區水道町五三　振替口座東京四三七三番　日本洋書協會出版部

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊 純文藝雜誌

詩と劇

定價 一部金 卅錢

第二十九號（二月一日發行）

廣き國（飜譯） シュニッツレル 楠山正雄

チ氏と後印象派（飜譯） ハインド 木村莊八

黄色い國（劇曲） 井田絃聲

若葉の頃（劇曲） 萩原朝彦

お京と私（小說） 小杉寛

緑こそ希望（飜譯） 伊東六郎

イエフの思ひ出（評論） 仲田勝之助

萬松樓の一日（小品） 大橋有春

詩人としてのニチエ（評論） 秋本芦風

詩の內部生命（評論） 白鳥省吾

編輯の後（感想） 人見東明

高原の温泉（歌） 松岡白虹

春と鳥（歌） 土岐哀果選

海の旅路（歌） 若山牧水選

露國新進作家の近來（評論） 昇曙夢

扉に凭りて（隨筆） 清浦青鳥

あやしき憂愁（詩） 人見東明

コーヒーの香（歌） 土岐哀果

愉樂品（詩） 福田夕咲

同じ生（詩） 加藤介春

樅の梢（詩） 西宮藤朝

雨と興奮（詩） 松村巽

黒阿片と夜（詩） 鎌野白夜

血色の酒（歌） 佐藤篤子

人と影（表紙繪） 岸田劉生

小鳥（扉繪） 濱田葆光

女と木立（扉繪） 三並花弟

自畫像（裏繪） ゴッホ

無宿者（小說） 小川未明

ゴーゴリの內生活と臨終（飜譯） 長澤武男

發行所 東京小石川區 雜司ヶ谷町 詩と劇社

大賣捌 東京堂 東海堂 北隆館 至誠堂 盛春堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和44年4月15日発行　【第4回配本】

青鞜第3巻　2月号

編著者	平塚らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 3,800円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
766
B45
v.3
no.2

Digitized by Google

University of Colorado at Boulder
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER
U18304 6746262

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER